

**尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査
結果報告書**

平成 28 年 4 月

【目次】

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査概要	2
3. 報告書の見方	2
II. 調査の結果	3
1. 回答者について	4
2. 本市での生活について	7
3. これからのまちづくりについて	14
4. 暮らしの満足度と今後の重要度について	47
III. 経年比較	57

I . 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は「第6次尾鷲市総合計画」の進行管理にあたり、市民の皆様のご意見を反映すべく、またこれからのまちづくりに関してどう考えているのかを把握するため、毎年アンケート調査を実施しているものです。

2. 調査概要

調査区域 : 尾鷲市全域

調査対象 : 18歳以上の市民から1,000人を無作為抽出

調査時期 : 平成28年3月

配布数 : 1,000票

回収数 : 523票

回収率 : 52.3%

3. 報告書の見方

回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

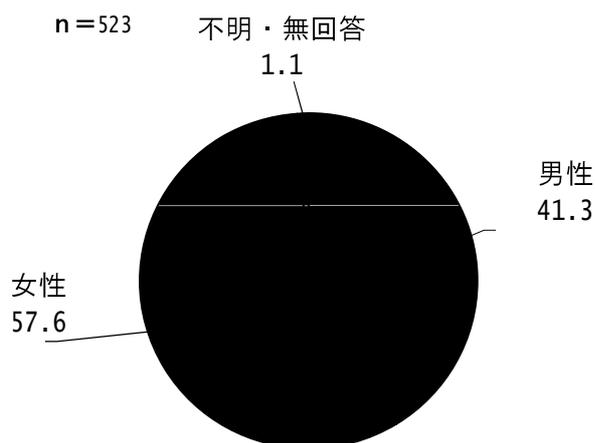
グラフ及び表の「n数 (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

Ⅱ. 調査の結果

1. 回答者について

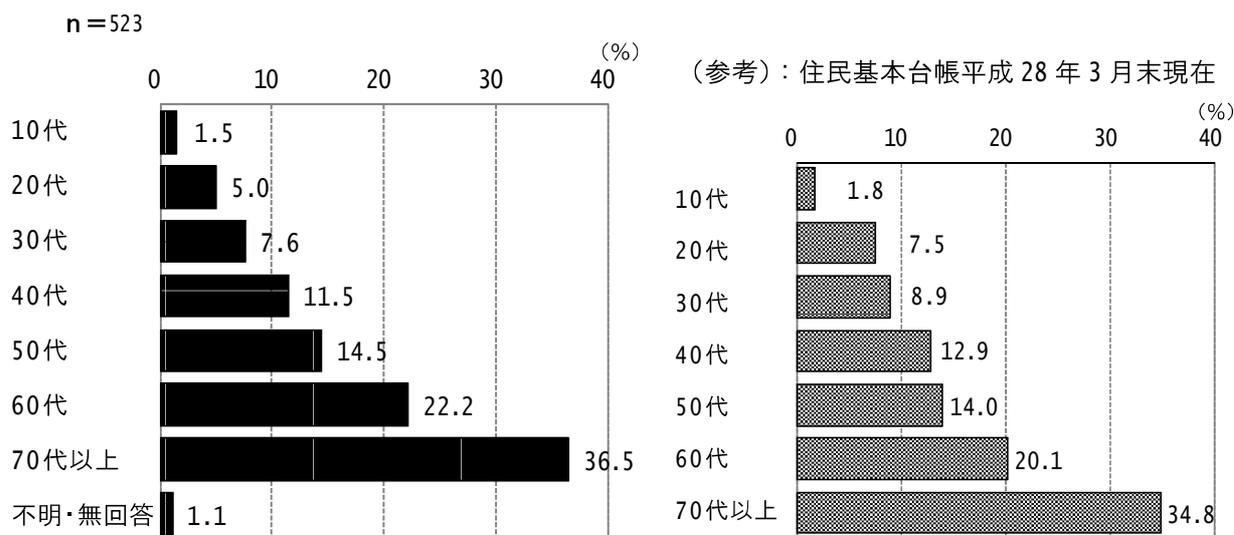
問1 あなたの性別をお聞かせください。

回答者の性別は、「女性」が57.6%、「男性」が41.3%、不明・無回答が1.1%となっています。



問2 あなたの年齢をお聞かせください。

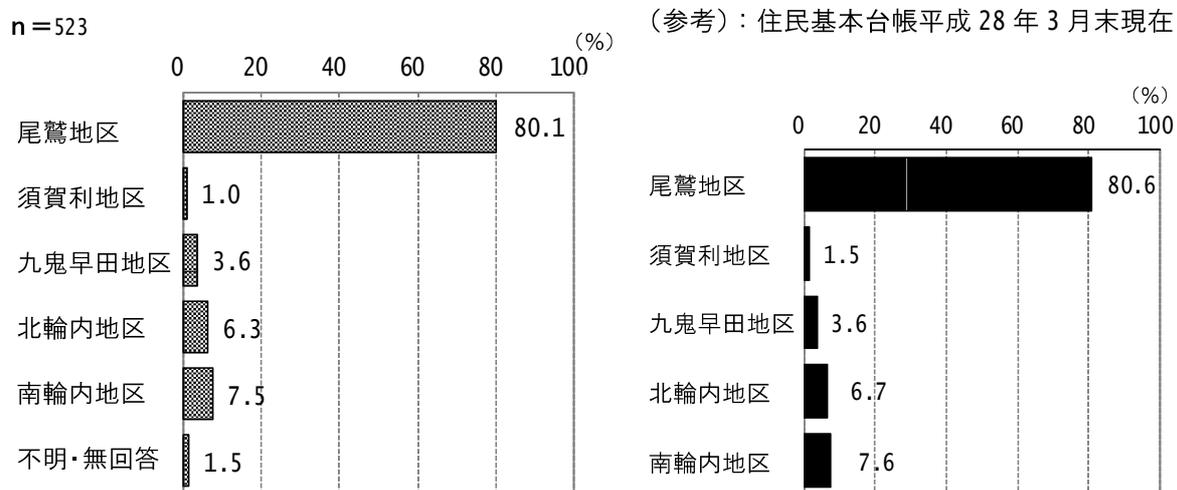
回答者の年齢は、「60代」が22.2%、「70代以上」が36.5%と、60代以上が約6割を占めています。住民基本台帳の人口割合と比較すると、「50代」「60代」「70代以上」で実際の割合より高く、その他の年代では低くなっています。



※調査対象である18歳以上の人口の年齢構成比。10代は18、19歳のみ。

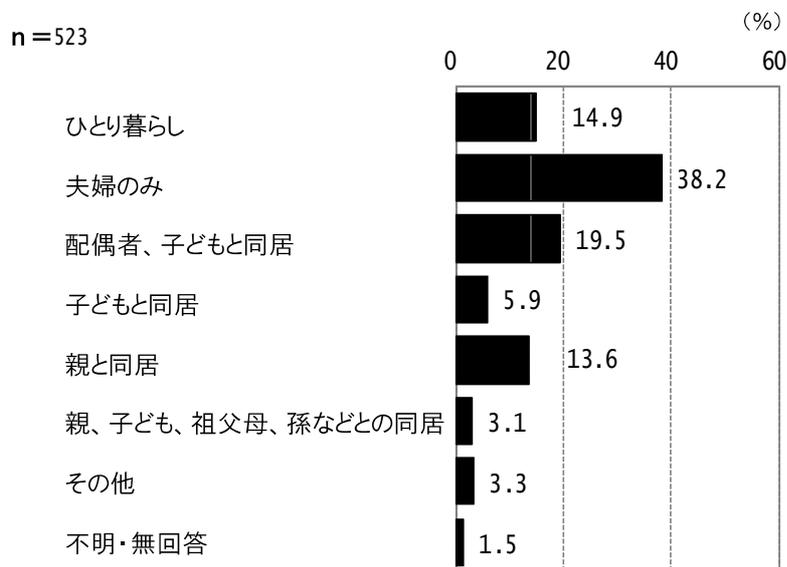
問3 あなたは、尾鷲市のどの地区にお住まいですか。

回答者の居住地区は、「尾鷲地区」が80.1%と大半を占めています。住民基本台帳の人口割合と比較すると、ほぼ同じ割合となっています。



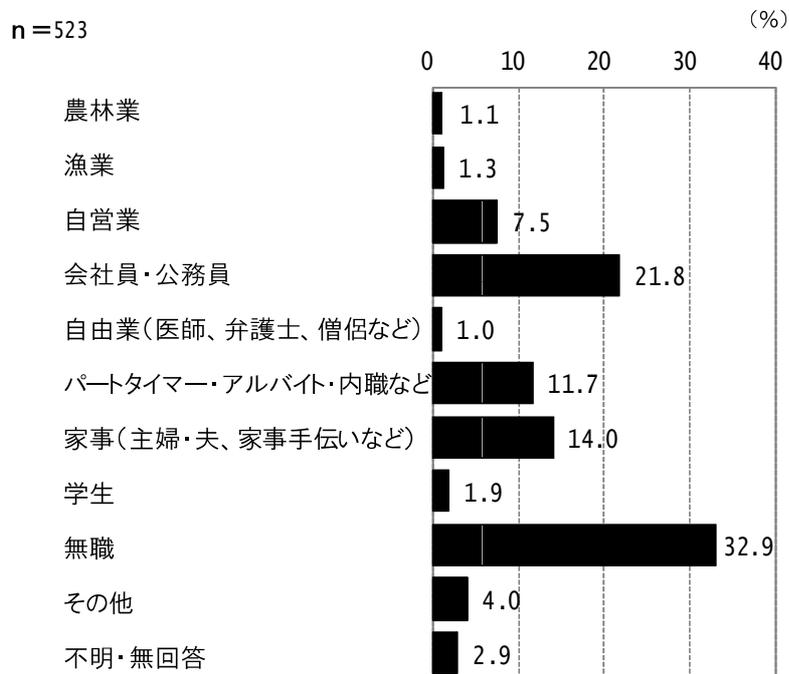
問4 あなたの世帯の状況を教えてください。

回答者の世帯の状況は、「夫婦のみ」が38.2%、「配偶者、子どもと同居」が19.5%、「ひとり暮らし」が14.9%となっています。



問5 あなたの主な職業をお聞かせください。

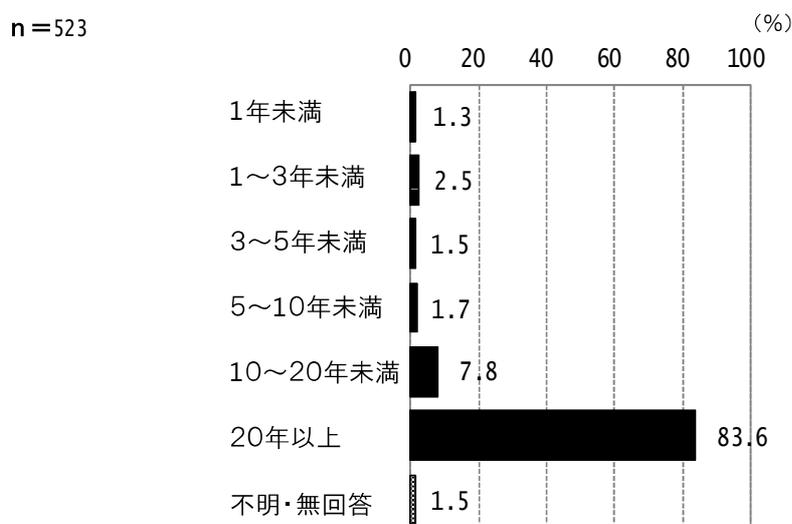
回答者の職業は、「無職」が32.9%、「会社員・公務員」が21.8%、「家事（主婦・夫、家事手伝いなど）」が14.0%となっています。



その他	件数
看護師	2
介護士	2
シルバー人材センター職員	2

問6 あなたが尾鷲市にお住まいになってから何年経過していますか。

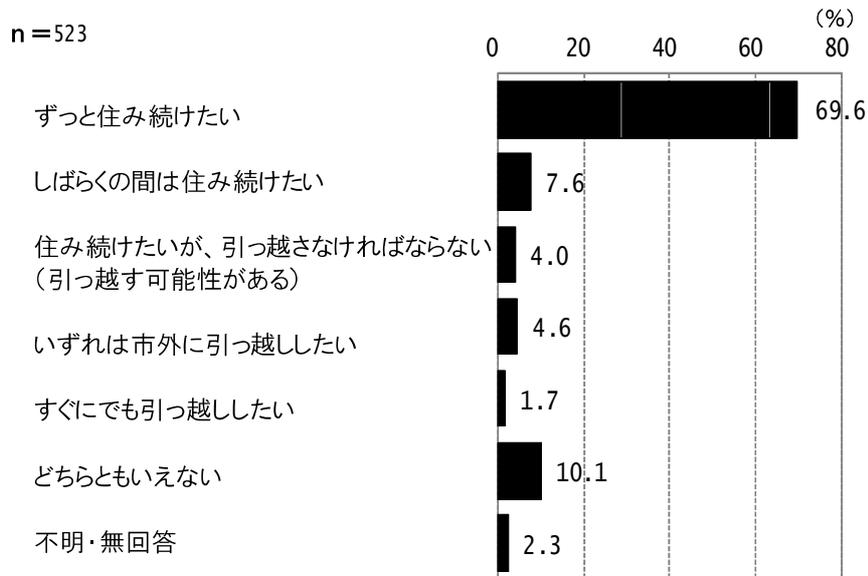
回答者の居住年数は、「20年以上」が83.6%と大半を占めています。



2. 本市での生活について

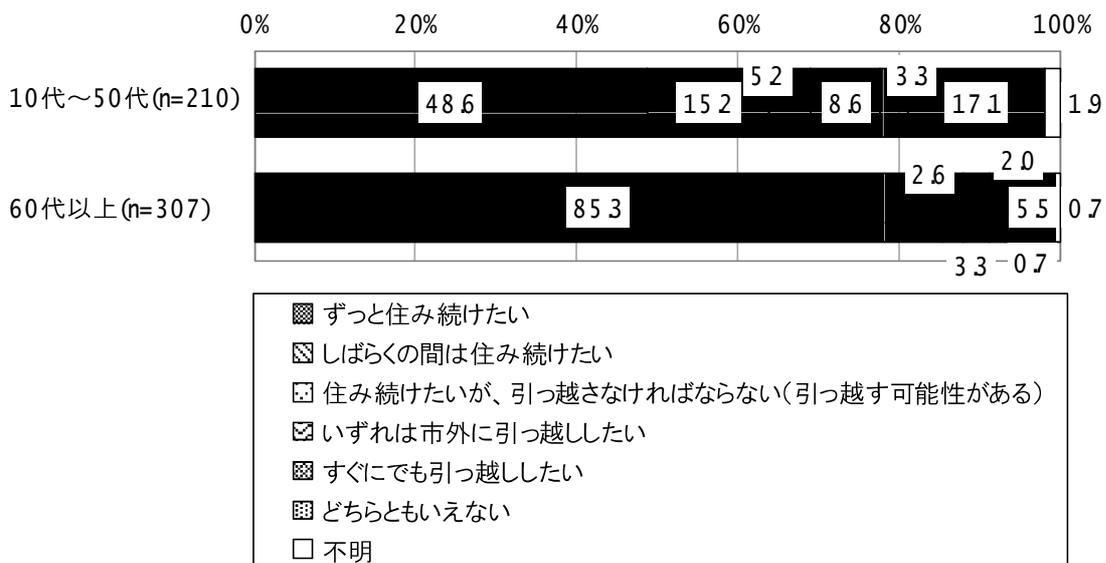
問7 あなたは、これからもずっと尾鷲市に住み続けたいとお考えですか。

定住意向は、「ずっと住み続けたい」が69.6%、「しばらくの間は住み続けたい」が7.6%となっており、『住み続けたい』と答えた方が合計で約8割を占めています。



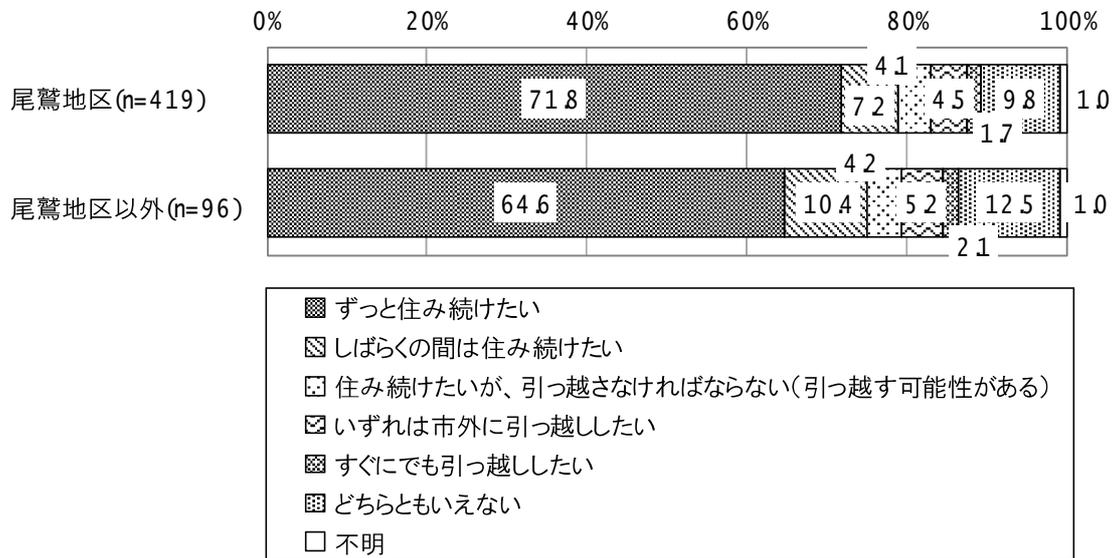
問7×年代

定住意向を年代別に見ると、「ずっと住み続けたい」は、「60代以上」では8割を超えているのに対し、「10代～50代」では5割弱と年代による差が見られます。



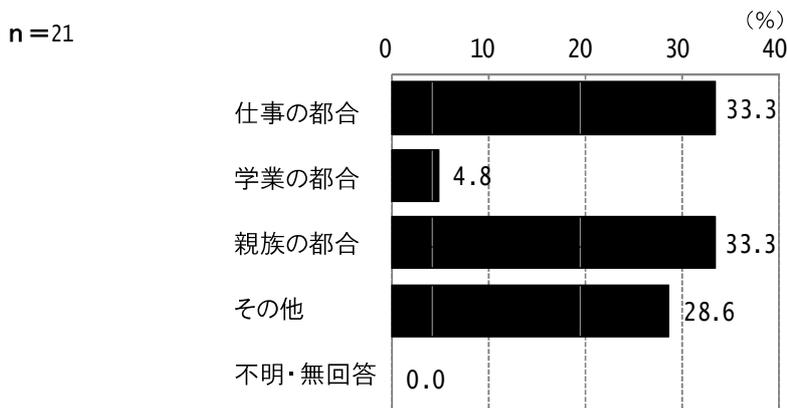
問7×居住地区

定住意向を地区別に見ると、「ずっと住み続けたい」は、「尾鷲地区」の方が7.2ポイント高くなっています。



問8 【問7で「住み続けたいが、引っ越さなければならない(引っ越す可能性がある)」とお答えになった方におうかがいします。】引っ越す可能性がある理由は何ですか。

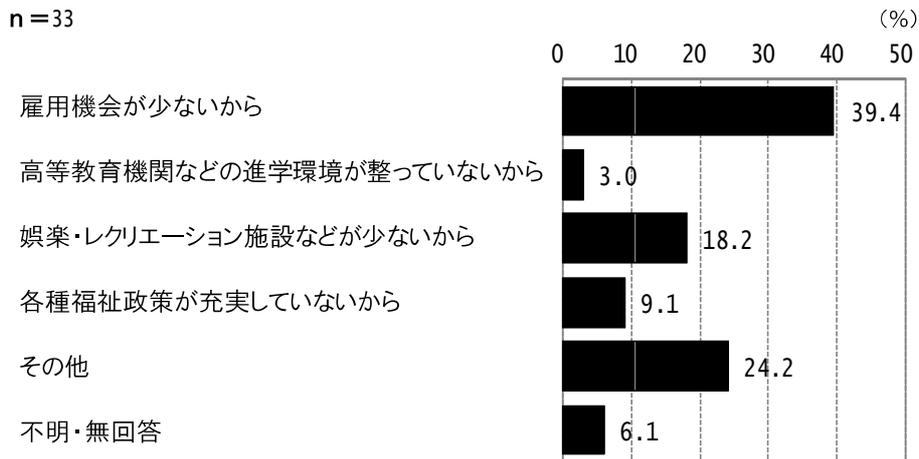
引っ越さなければならない理由は、「仕事の都合」と「親族の都合」が33.3%と同率で高くなっています。



その他	件数
老後は市外に居住する子ども宅へ移る	4
病気のため介護が必要となった時	2
配偶者の在所へ行くかもしれない	1

問9 【問7で「いずれは市外に引っ越したい」または「すぐにでも引っ越したい」とお答えになった方におうかがいします。】市外に引っ越したい理由は何ですか。

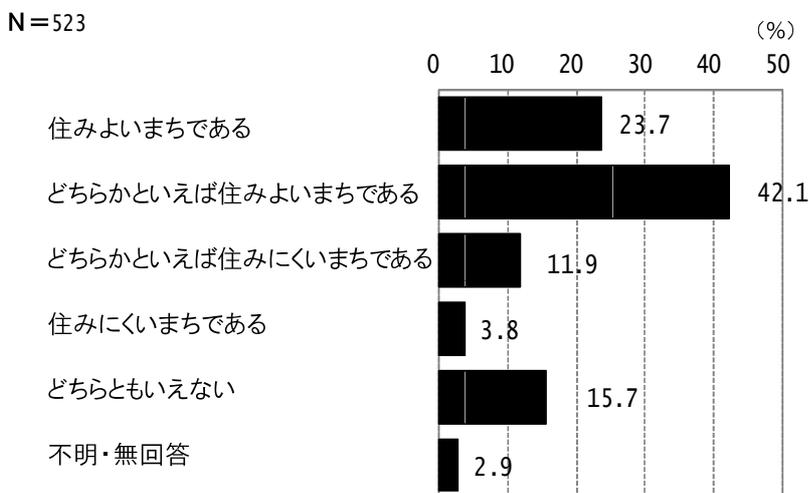
引っ越したい理由は、「雇用機会が少ないから」が39.4%で最も高く、次いで「その他」が24.2%、「娯楽・レクリエーション施設が少ないから」が18.2%となっています。



その他	件数
子どものところに行きたい	4
住んでいて楽しくない、愛着がわかない	2
親の介護	1
老齢のため	1
選択肢すべてが理由	1

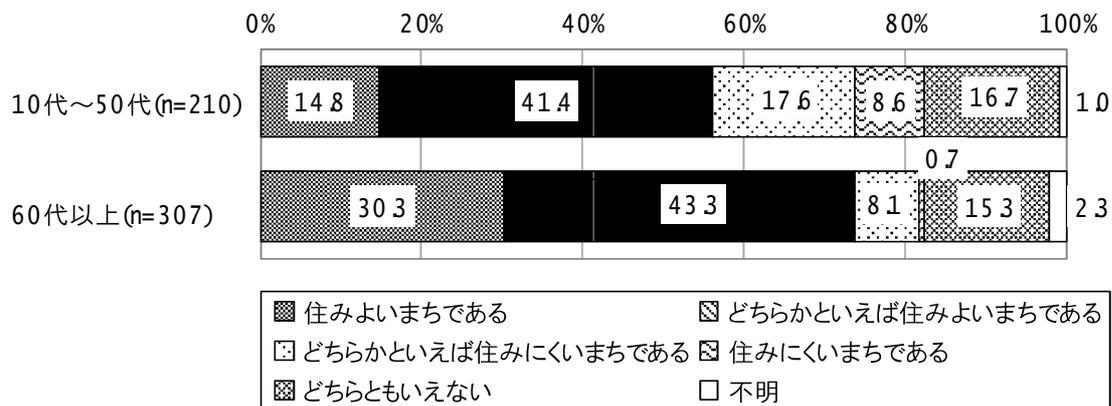
問10 あなたは、尾鷲市を全体としてどのようにお考えですか。

尾鷲市全体の評価として、「どちらかといえば住みよいまちである」が42.1%、「住みよいまちである」が23.7%となっており、合計で65.8%が『住みよいまち』であるとしています。



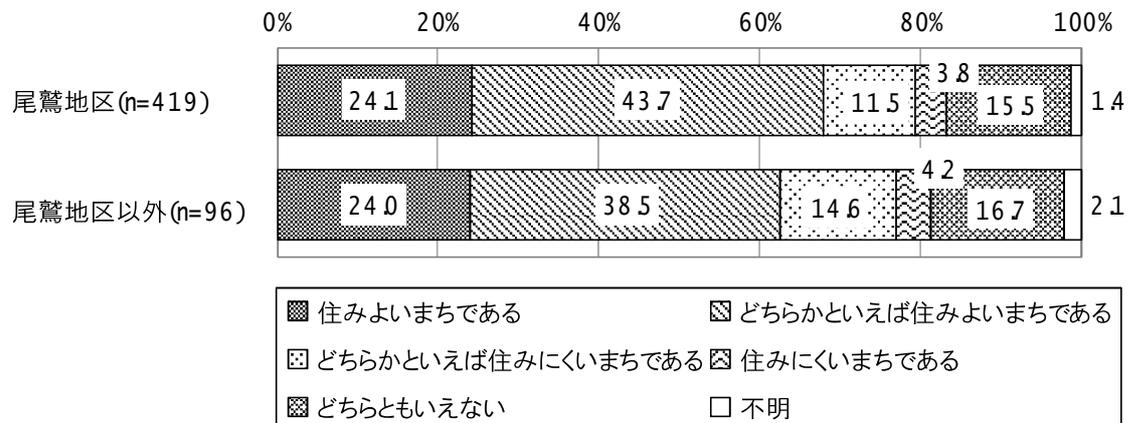
問 10×年代

尾鷲市全体の評価を年代別に見ると、『住みよいまち』であると感じている方は、「60代以上」では7割を超えているのに対し、「10代～50代」では約6割と年代による差が見られます。



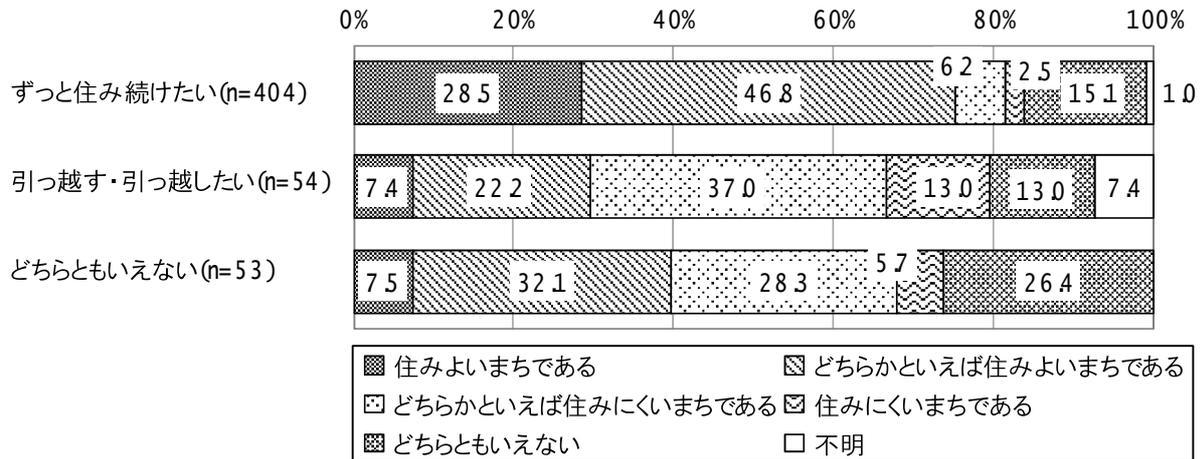
問 10×居住地区

尾鷲市全体の評価を地区別に見ると、「住みよいまちである」については地区による差はありませんが、「どちらかといえば住みよいまちである」については、「尾鷲地区」では4割を超えているのに対し、「尾鷲地区以外」では4割弱となっており、地区により若干の差が見られます。



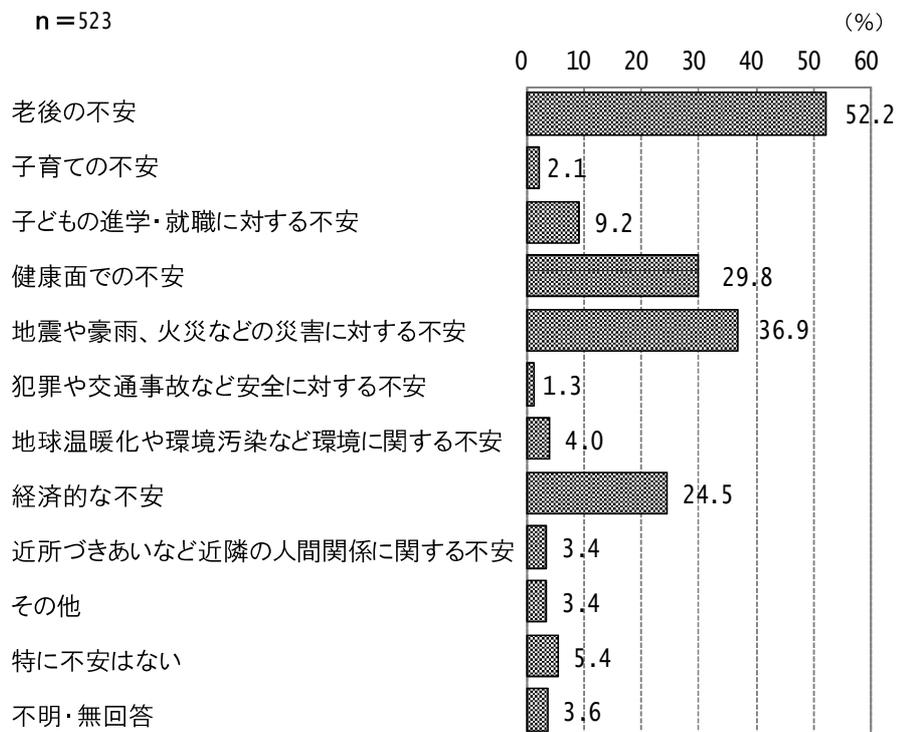
問 10×定住意向

尾鷲市全体の評価を定住意向別に見ると、『住みよいまち』であると感じている方は、「ずっと住み続けたい」では7割以上となっているのに対し、「引っ越す・引っ越したい」では3割程度にとどまり、定住意向による差が見られます。



問 11 現在、あなたが不安に感じていることは何ですか。(複数回答)

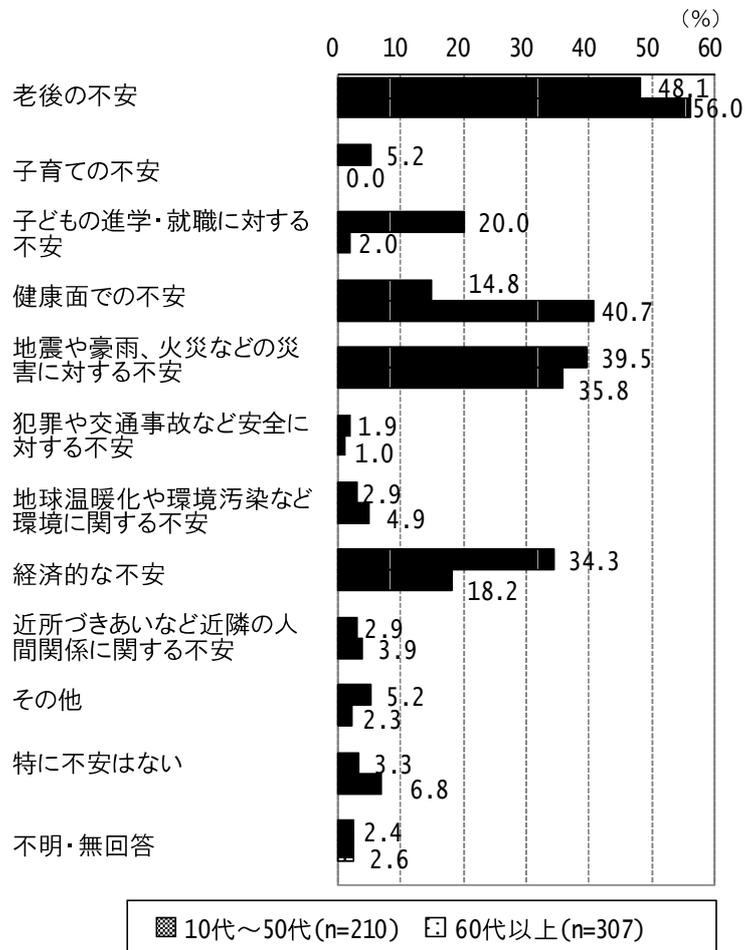
現在不安に感じていることとして、「老後の不安」が 52.2%で最も高く、次いで「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」が 36.9%、「健康面での不安」が 29.8%となっています。



その他	件数
地域医療に対する不安	3
過疎化に対する不安	3
行財政に対する不安	3
親の高齢化に対する不安	2
交通に対する不安	2

問 11×年代

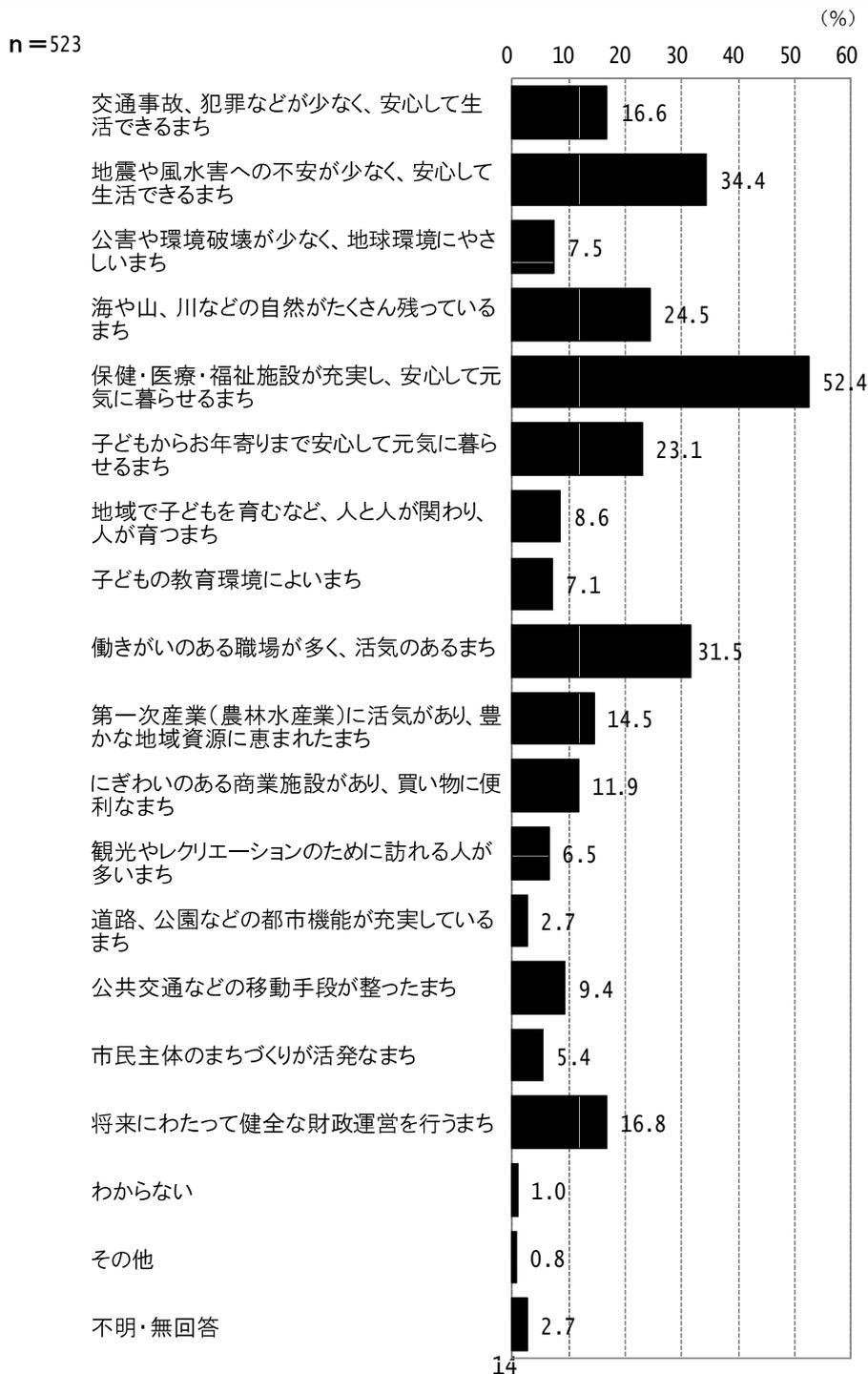
現在不安に感じていることを年代別に見ると、「老後の不安」や「健康面での不安」では「60代以上」の割合が高く、「子どもの進学・就職に対する不安」や「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」、「経済的な不安」では「10代～50代」のほうが高くなっています。



3. これからのまちづくりについて

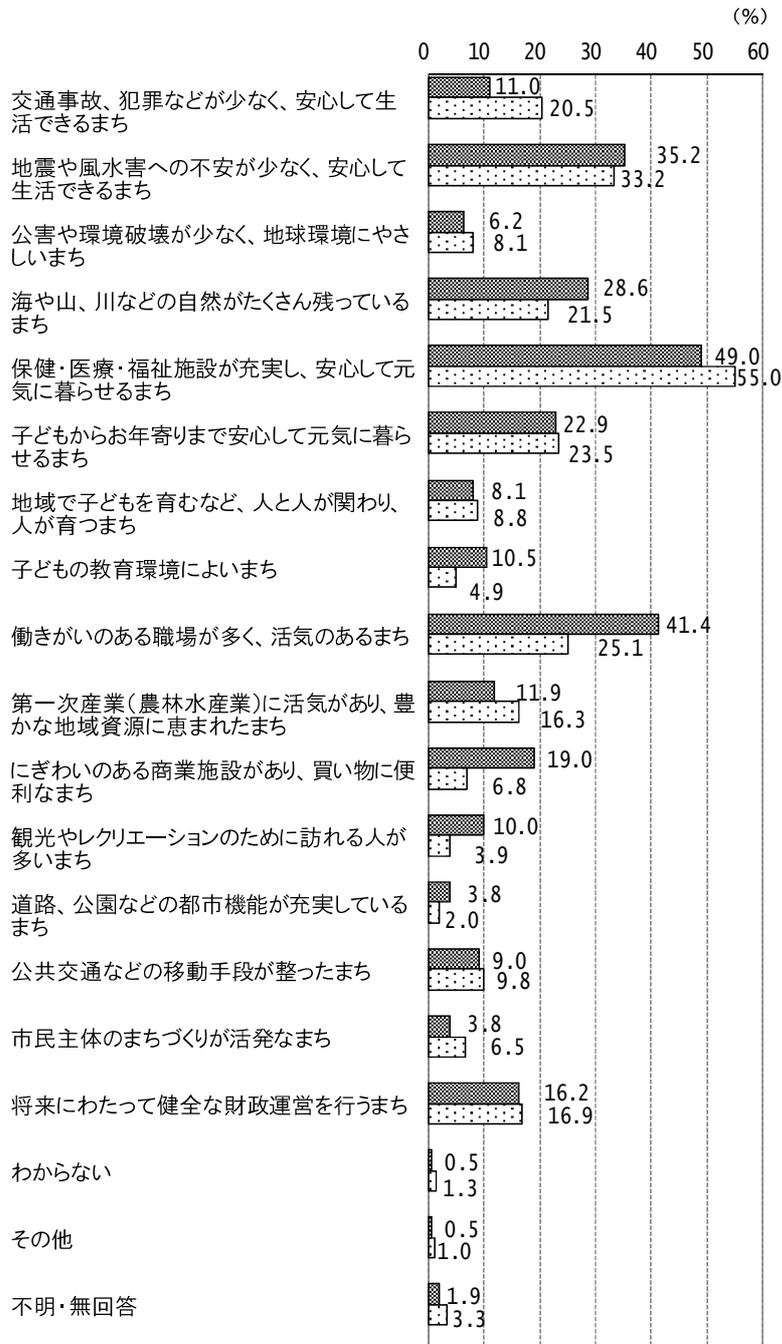
問 12 あなたは、尾鷲市が将来どのようなイメージのまちになってほしいと思いますか。（複数回答）

尾鷲市の将来イメージで希望するものとして、「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が52.4%で最も高く、次いで「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」が34.4%、「働きがいのある職場が多く、活気のあるまち」が31.5%となっています。



問 12×年代

尾鷲市の将来イメージで希望するものを年代別に見ると、「交通事故、犯罪などが少なく、安心して生活できるまち」や「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」、「第一次産業（農林水産業）に活気があり、豊かな地域資源に恵まれたまち」などでは「60代以上」が高く、「働きがいのある職場が多く、活気のあるまち」や「にぎわいのある商業施設があり、買い物に便利なまち」、「海や山、川などの自然がたくさん残っているまち」などでは「10代～50代」が高くなっています。



■ 10代～50代(n=210) □ 60代以上(n=307)

問 12×定住意向

尾鷲市の将来イメージで希望するものを定住意向別に見ると、「ずっと住み続けたい」「引っ越す・引っ越したい」を選んだ方に共通して、「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が最も高くなっています。

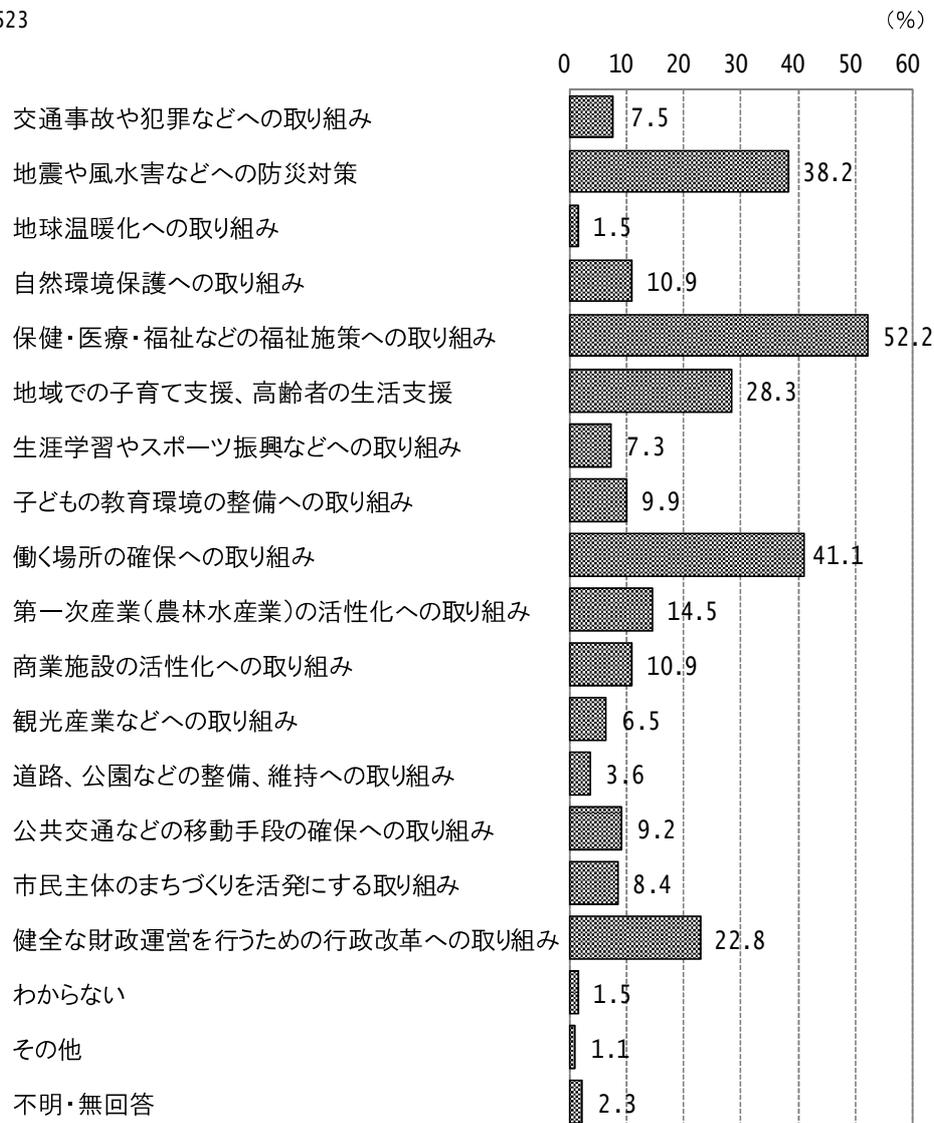


ずっと住み続けたい(n=404)
 引っ越す・引っ越したい(n=54)
 どちらともいえない(n=53)

問 13 あなたは、尾鷲市がこれからまちづくりを進めるうえで、市が積極的に進めるべき取り組みは何であるとお考えですか。（複数回答）

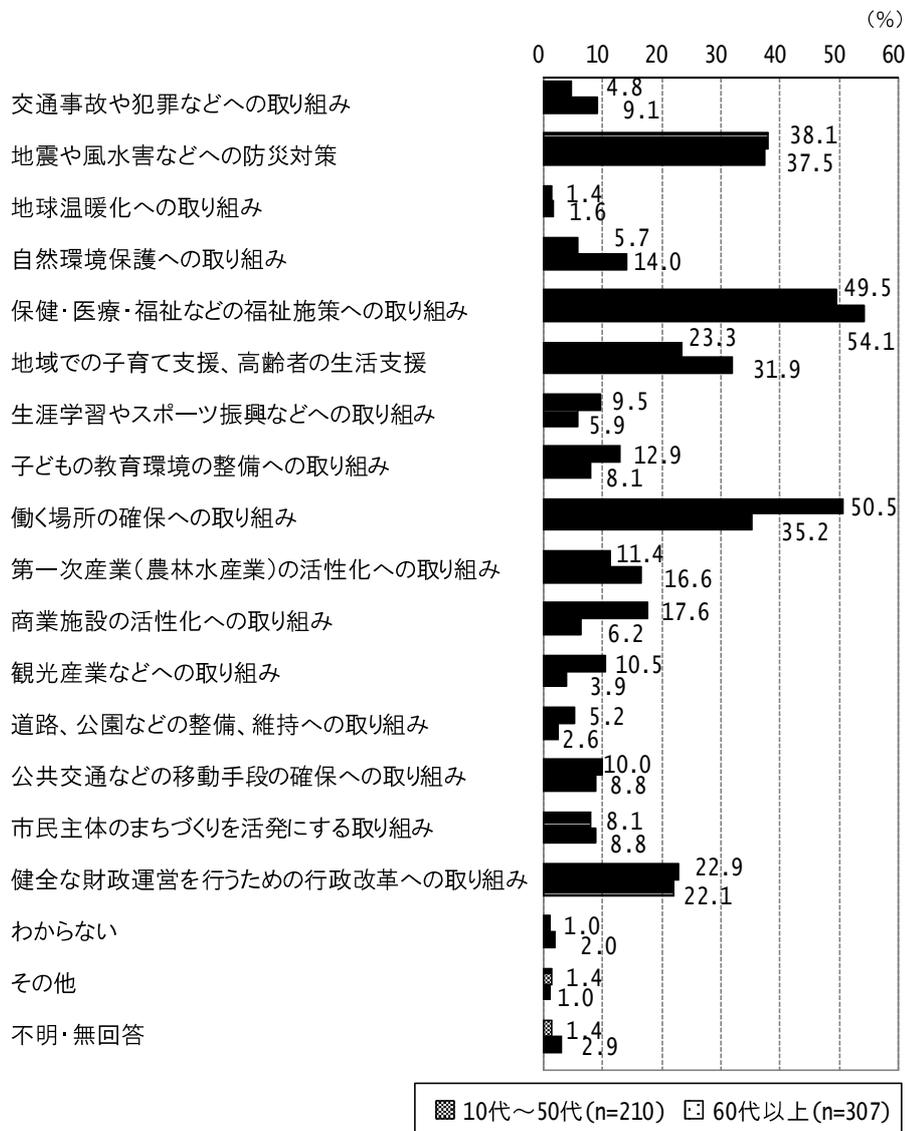
これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みとして、「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が 52.2%で最も高く、次いで「働く場所の確保への取り組み」が 41.1%、「地震や風水害などへの防災対策」が 38.2%となっています。

n = 523



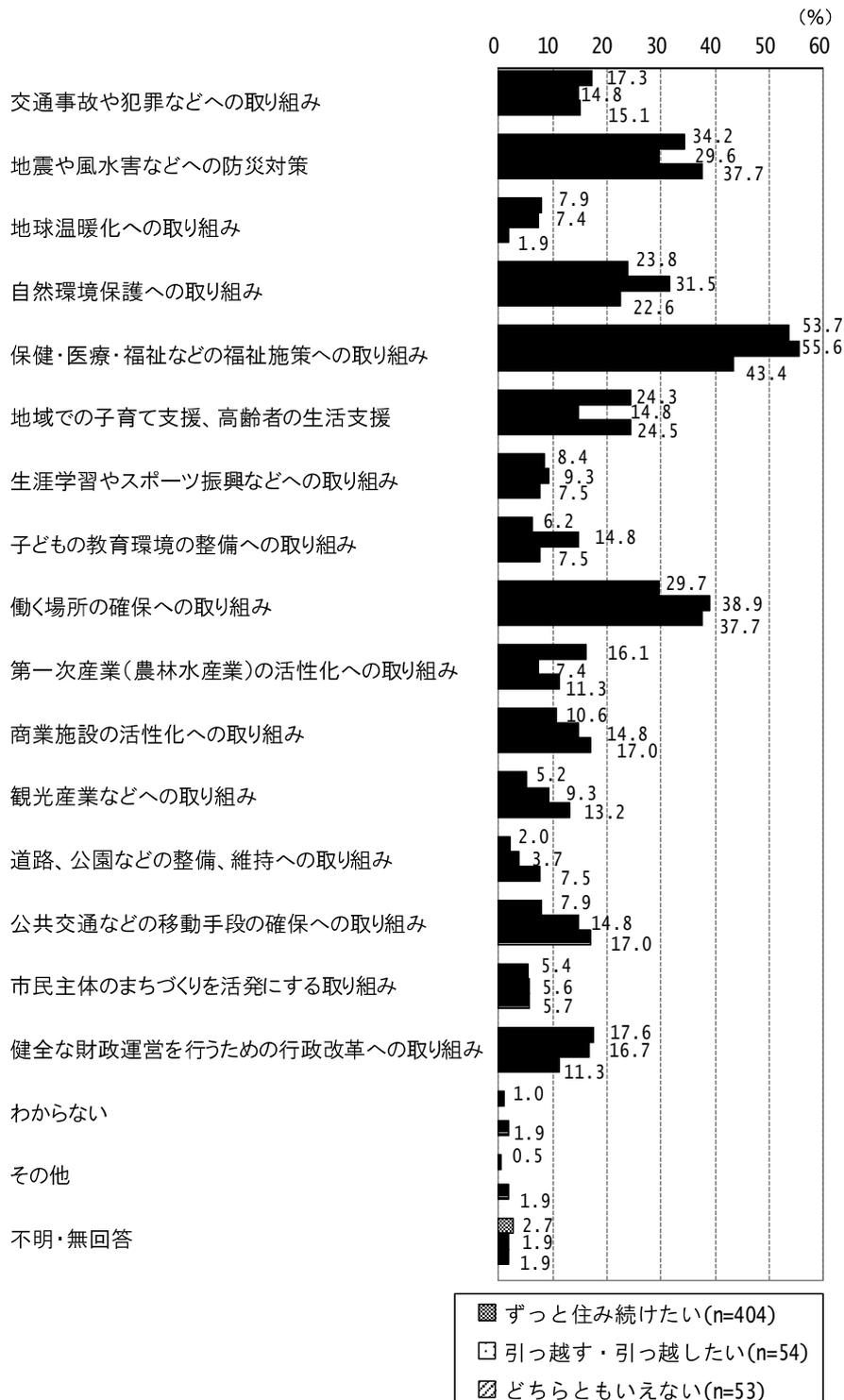
問 13×年代

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みを年代別に見ると、「60代以上」では「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が最も高く、「10代～50代」では「働く場所の確保への取り組み」が最も高くなっています。



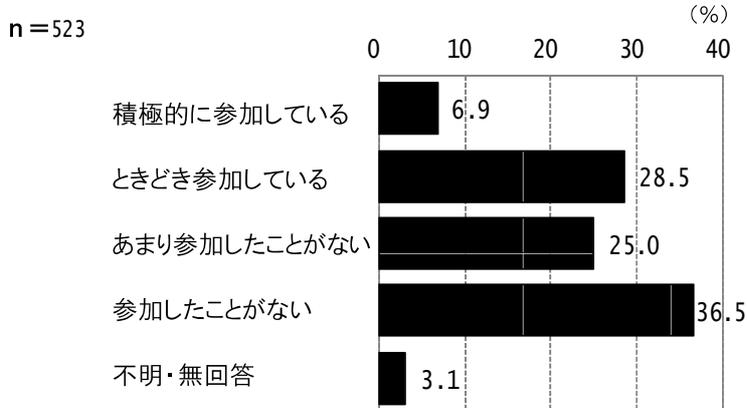
問 13×定住意向

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みを定住意向別に見ると、「ずっと住み続けたい」「引っ越す・引っ越したい」を選んだ方に共通して、「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が最も高くなっています。次いで、「ずっと住み続けたい」では「地震や風水害などへの防災対策」が、「引っ越す・引っ越したい」では「働く場所の確保への取り組み」が高くなっています。



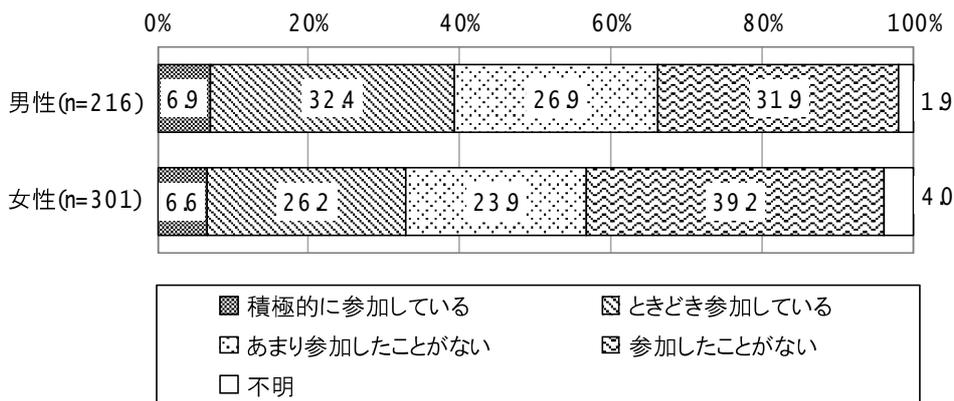
問 14 あなたは、地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがありますか。

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況として、「ときどき参加している」が28.5%、「積極的に参加している」が6.9%と、『参加している』は3割強となっています。



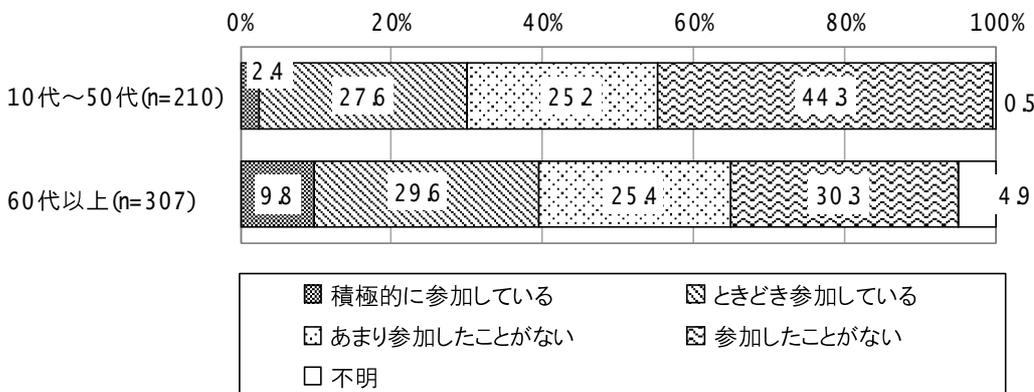
問 14×性別

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を性別ごとに見ると、『参加している』は、「男性」の方が6.5ポイント高くなっています。



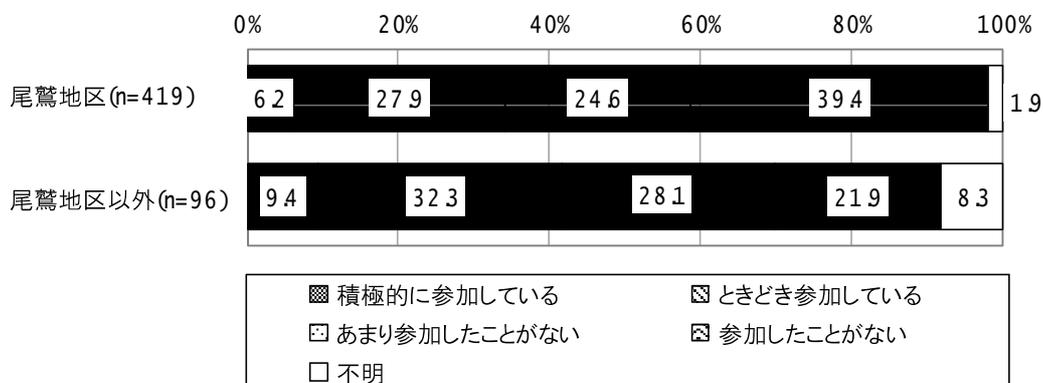
問 14×年代

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を年代別に見ると、『参加している』は、「10代～50代」では3割であるのに対し、「60代」では約4割となっています。



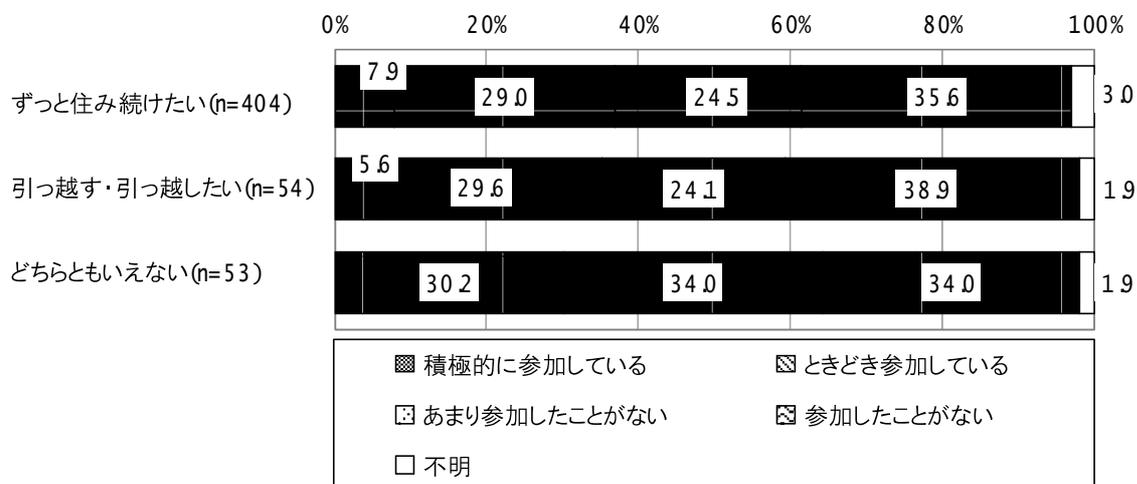
問 14×地区

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を地区別に見ると、『参加している』は、「尾鷲地区」では3割程度であるのに対し、「尾鷲地区以外」では4割を超えています。



問 14×定住意向

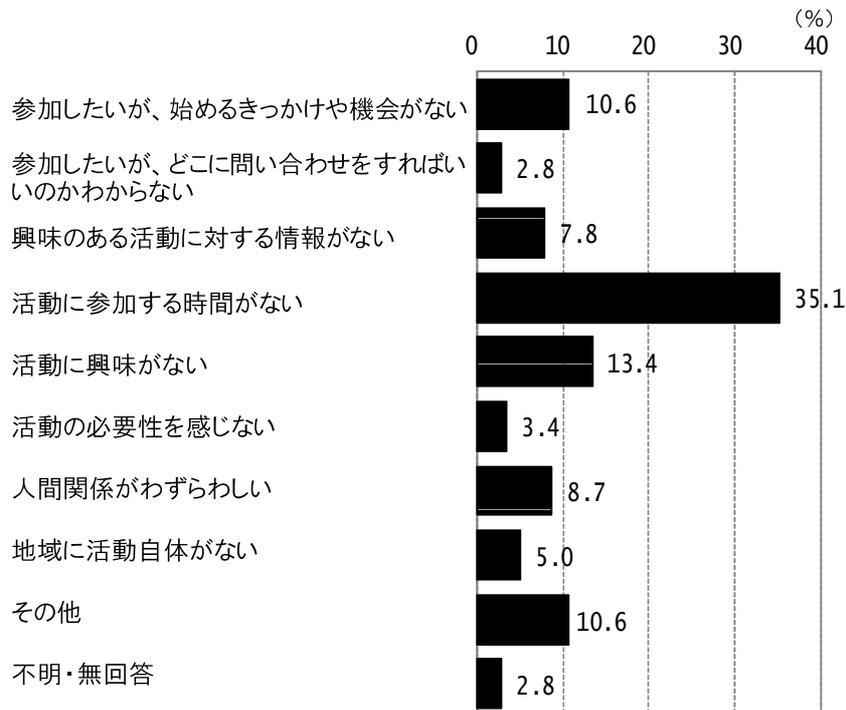
地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を定住意向別に見ると、『参加している』は、「ずっと住み続けたい」では36.9%、「引っ越す・引っ越したい」では35.2%と、定住意向による差はあまりありません。



問 15 【問 14 で「あまり参加したことがない」または「参加したことがない」とお答えになった方におうかがいします。】「あまり参加したことがない」「参加したことがない」と回答された理由は何ですか。

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由として、「活動に参加する時間がない」が 35.1%で最も高く、次いで「活動に興味がない」が 13.4%、「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」と「その他」がともに 10.6%となっています。

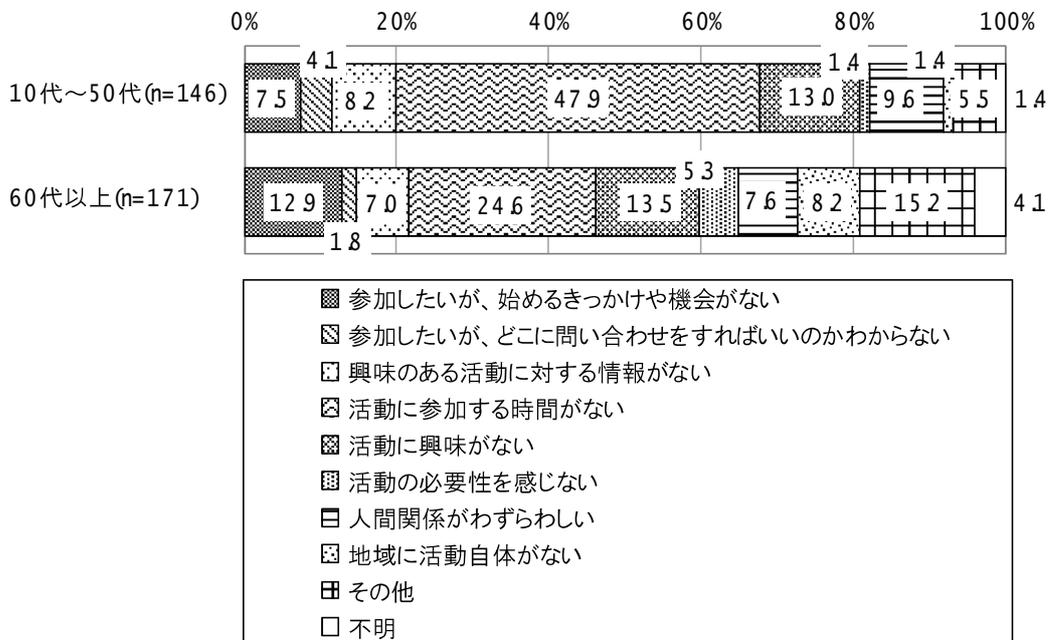
n=322



その他	件数
健康上の理由	17
高齢のため	7
曜日が合わない	2
施設にいるため参加できない	1
今の仕事に手いっぱい	1
自分の生活に追われていた。	1
単身赴任で地元になかった	1
市に魅力がないので、参加しようという意欲が湧かない	1

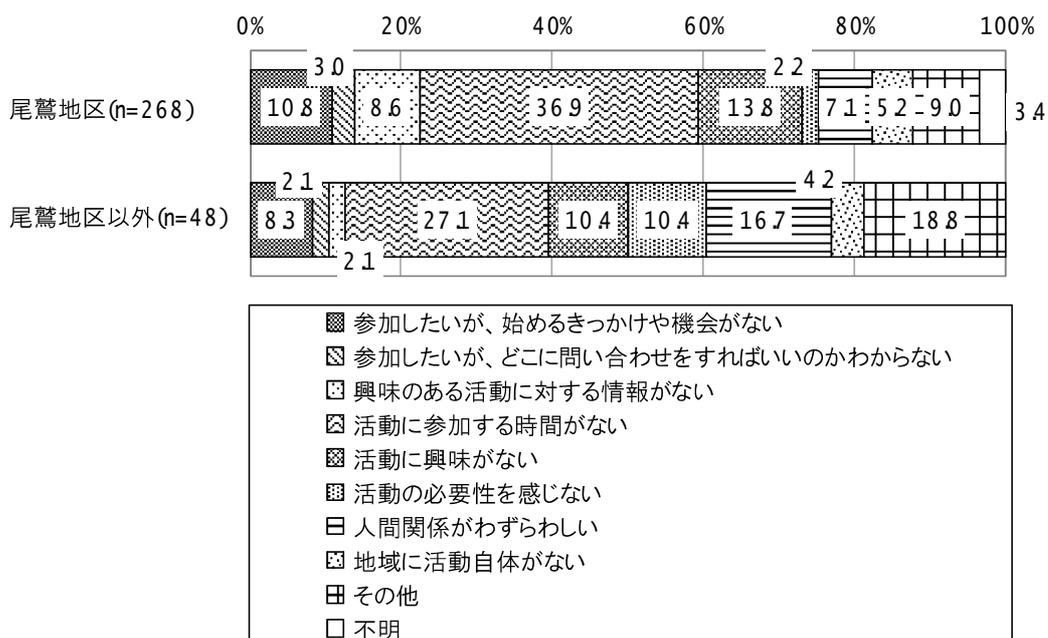
問 15×年代

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由を年代別に見ると、「活動に参加する時間がない」の割合は、「10代～50代」が「60代以上」に比べ約2倍となっています。



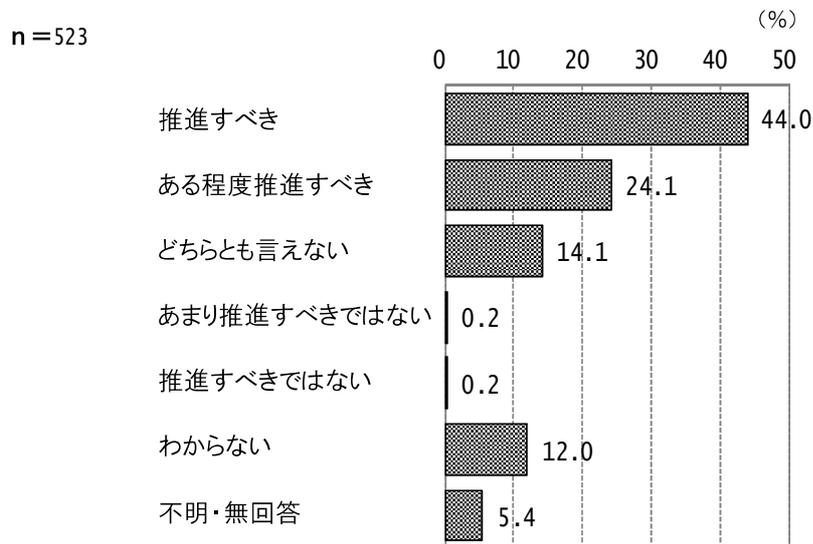
問 15×地区

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由を地区別に見ると、「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」や「活動に参加する時間がない」では「尾鷲地区」の方が高く、「人間関係がわずらわしい」では、「尾鷲地区以外」の方が高くなっています。



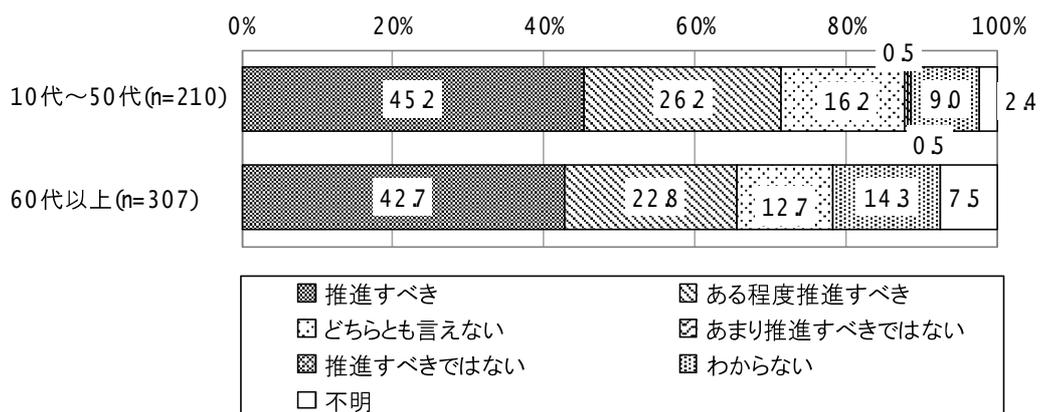
問 16 尾鷲市ではこれから、市役所を含む市民みんなで地域の課題を解決するために、目標を共有して、その目標達成のために取り組むことを進めたいと考えています。このことについてあなたはどのように考えますか。

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて、「推進すべき」が44.0%、「ある程度推進すべき」が24.1%と、『推進』した方が良いとの回答が約7割となっています。



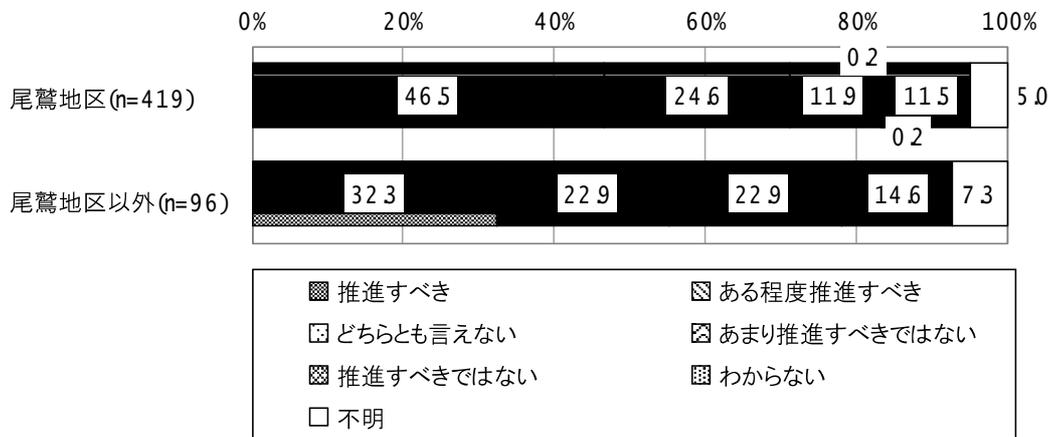
問 16×年代

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて年代別に見ると、「推進すべき」と答えた方は、「10代～50代」「60代以上」がともに半数以上となっており、「10代～50代」が5.9ポイント高くなっています。



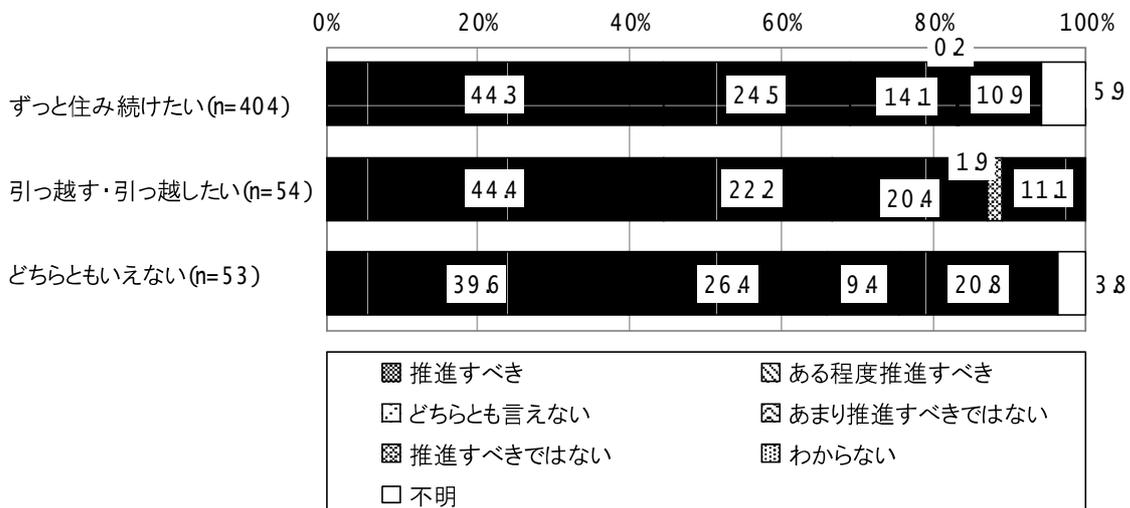
問 16×地区

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて地区別に見ると、「推進すべき」では、「尾鷲地区」にお住まいの方のほうが14.2ポイント高くなっています。



問 16×定住意向

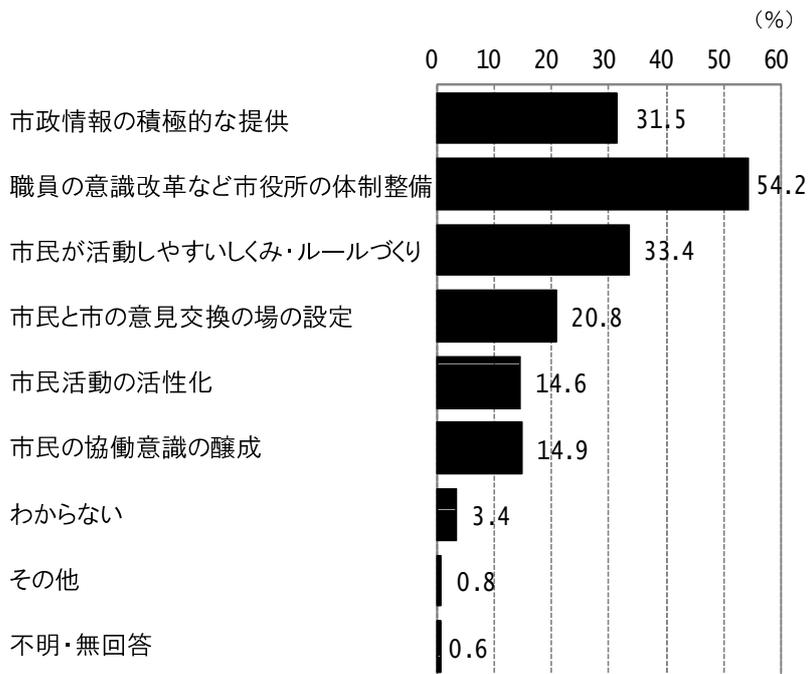
市民みんなで目標達成のために取り組むことについて定住意向別に見ると、「ずっと住み続けたい」と「引っ越す・引っ越したい」では「推進すべき」については差は見られませんが、「ある程度推進すべき」を合わせると、「ずっと住み続けたい」のほうが若干高くなっています。



**問 17 【問 16 で「推進すべき」または「ある程度推進すべき」とお答えになった方
におうかがいします。】市民との協働のまちづくりを進めるうえで、あなたは、
市がどのようなことに取り組むべきだと考えますか。（複数回答）**

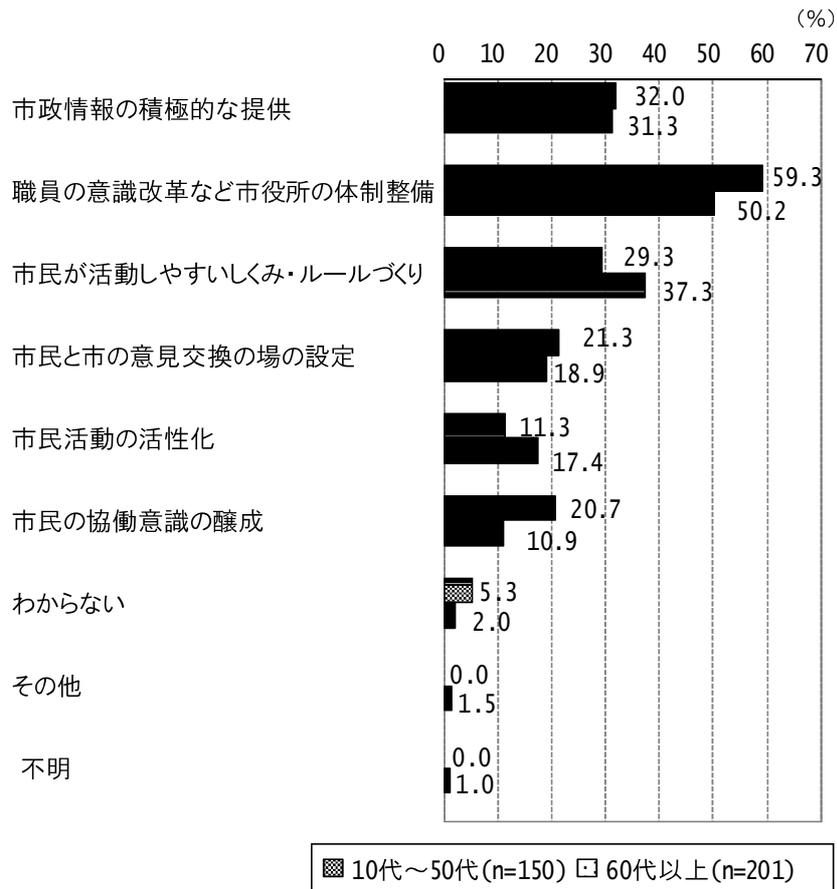
市民との協働のまちづくりを進めるうえで市が取り組むべきこととして、「職員の意識改革
など市役所の体制整備」が 54.2%で最も高く、次いで「市民が活動しやすいしくみ・ルール
づくり」が 33.4%、「市政情報の積極的な提供」が 31.5%となっています。

n=356



問 17×年代

市民との協働のまちづくりを進めるうえで市が取り組むべきことを年代別に見ると、「職員の意識改革など市役所の体制整備」が各年代とも最も高くなっていますが、「10～50代」では59.3%と、「60代以上」を9.1ポイント上回っています。また、「60代以上」では「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」が37.3%と、「10代～50代」を8.0ポイント上回り高くなっています。

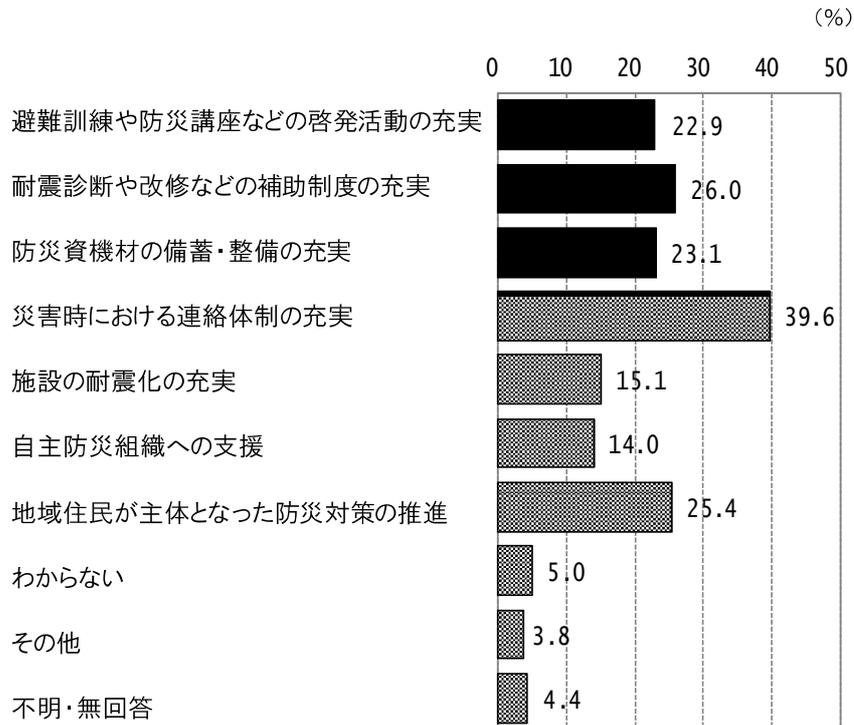


【安全】

問 18 あなたは、地震や台風など災害により被害を防ぐ取り組みとして、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

地震や台風など災害による被害を防ぐ取り組みとして、「災害時における連絡体制の充実」が 39.6%で最も高く、次いで「耐震診断や改修などの補助制度の充実」が 26.0%、「地域住民が主体となった防災対策の推進」が 25.4%となっています。

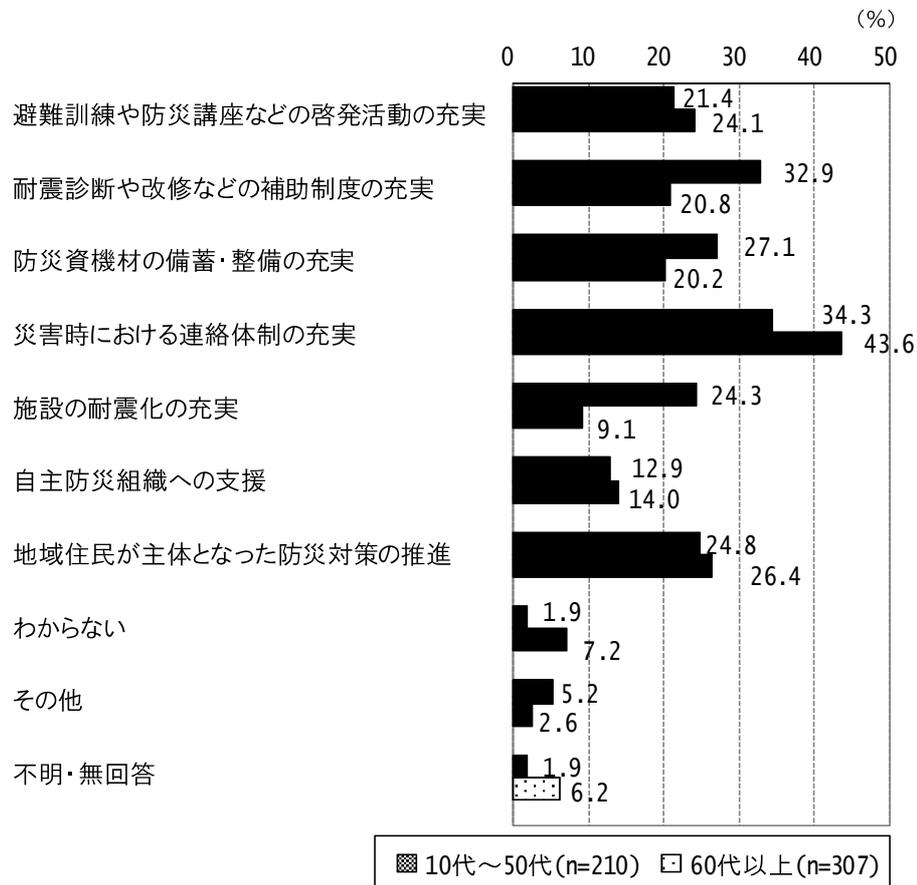
n = 523



その他	件数
避難施設の整備	7
津波対策	4
どれ程の防災対策をしても、想定外のことは起こる。その後のその時の連絡や対処がスムーズに行われるように、役所や警察、消防などの連携が大切かと思う。	1
東日本大震災でもわかるとおり行政には限界があり、被害が拡大するほど自助が重要と思われる	1
一人住まいの障害者や高齢者の自力避難できない方たちへの一人ひとりの対応。「逃げるが勝ち」ではなく、「逃げられない人への対応」をお願いします	1
どうやったら助かるか、常に考えておく意識づけ	1
税金のかからないこと	1
家族で避難場所を決めている	1
市職員が会議に出ていないでしょう	1

問 18×年代

災害による被害防止策を年代別に見ると、「耐震診断や改修などの補助制度の充実」や「防災資機材の備蓄・整備の充実」などでは「10～50代」が、「災害時における連絡体制の充実」や「地域住民が主体となった防災対策の推進」では「60代以上」の割合が高く、年代による差が見られます。

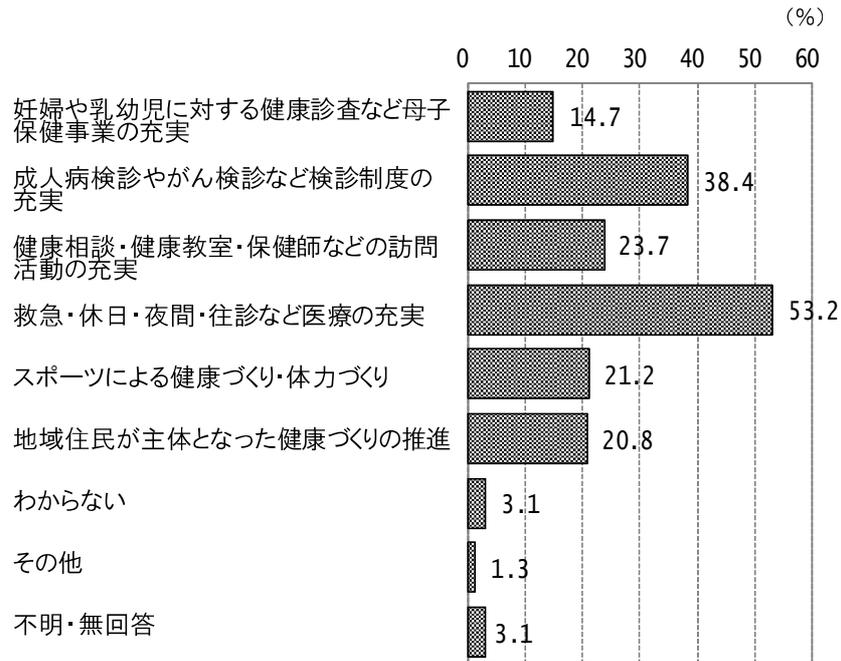


【健康づくり】

問 19 あなたは、健康づくりを充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。(複数回答)

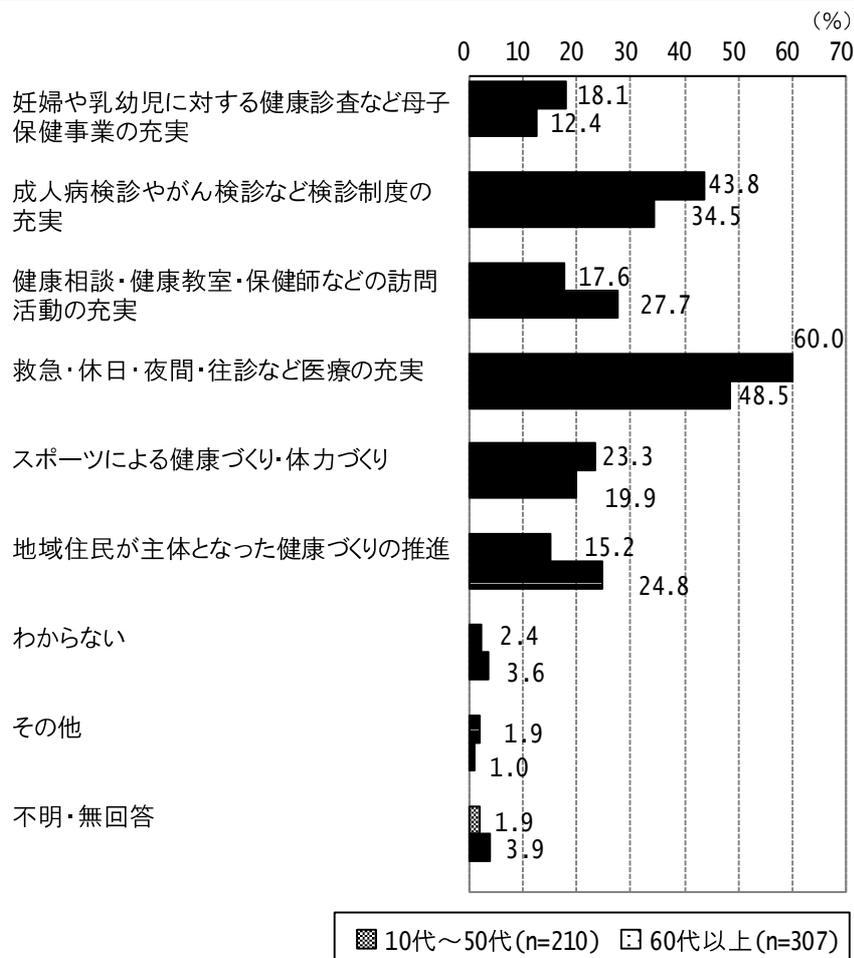
健康づくりの充実策として、「救急・休日・夜間・往診など医療の充実」が 53.2%で最も高く、次いで「成人病検診やがん検診など検診制度の充実」が 38.4%、「健康相談・健康教室・保健師などの訪問活動の充実」が 23.7%となっています。

n=523



問 19×年代

健康づくりの充実策を年代別に見ると、「救急・休日・夜間・往診など医療の充実」や「成人病検診やがん検診など検診制度の充実」は多少の差はあるものの各年代とも割合が高くなっており、「妊婦や乳幼児に対する健康診査など母子保健事業の充実」や「スポーツによる健康づくり・体力づくり」は「10代～50代」の方が高く、「健康相談・健康教室・保健師などの訪問活動の充実」や「地域住民が主体となった健康づくりの推進」は「60代以上」の方が高くなっています。

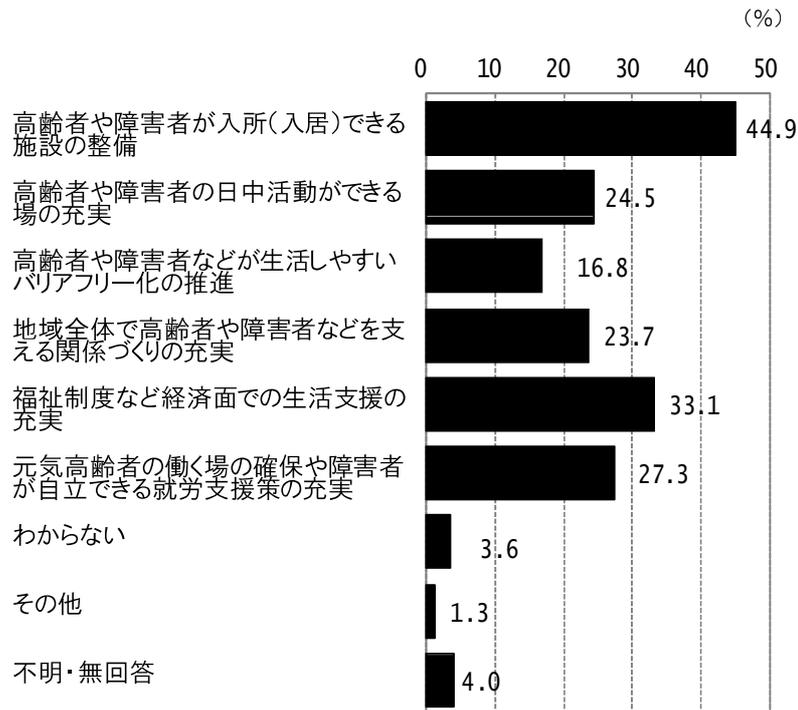


【福祉】

問 20 あなたは、福祉を充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。（複数回答）

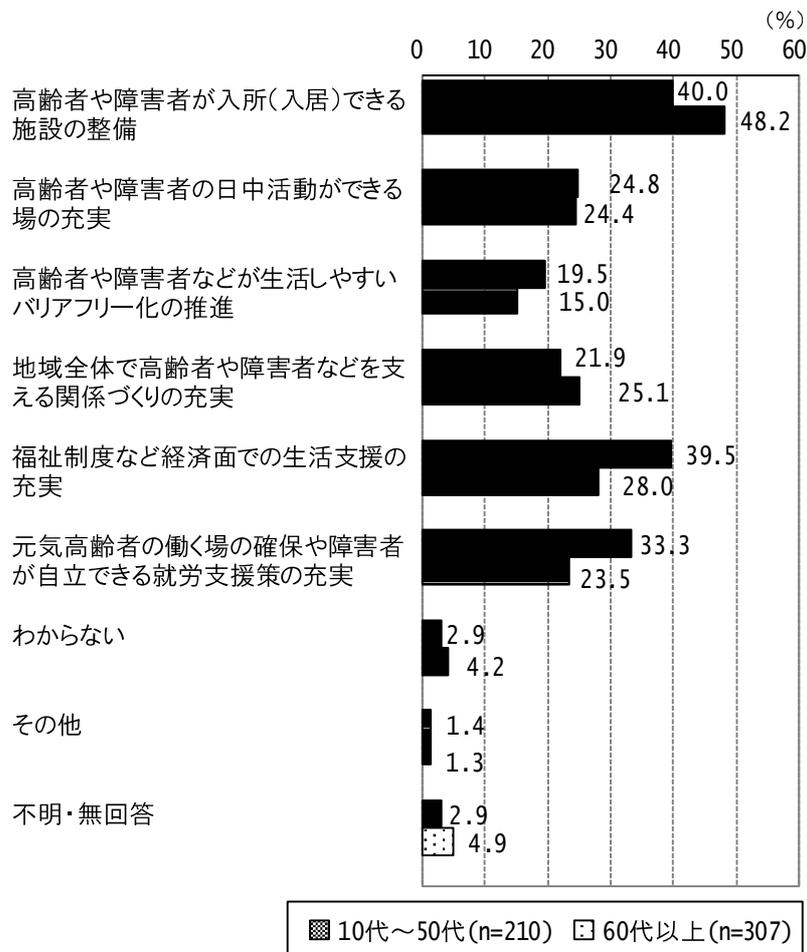
福祉の充実策として、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」が 44.9%で最も高く、次いで「福祉制度など経済面での生活支援の充実」が 33.1%、「元気高齢者の働く場の確保や障害者が自律できる就労支援策の充実」が 27.3%となっています。

n = 523



問 20×年代

福祉の充実策を年代別に見ると、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」では「60代以上」の割合が高く、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」や「元気高齢者の働く場の確保や障害者が自立できる就労支援策の充実」などでは「10代～50代」の方が高く、年代による差が見られます。

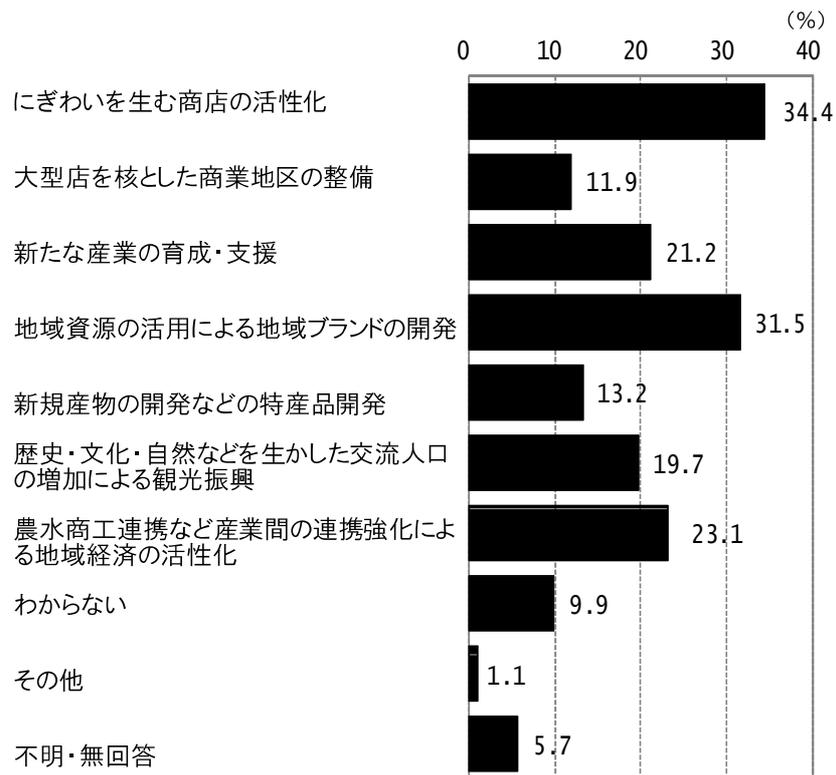


【産業振興】

問 21 あなたは、産業振興・活性化のためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。（複数回答）

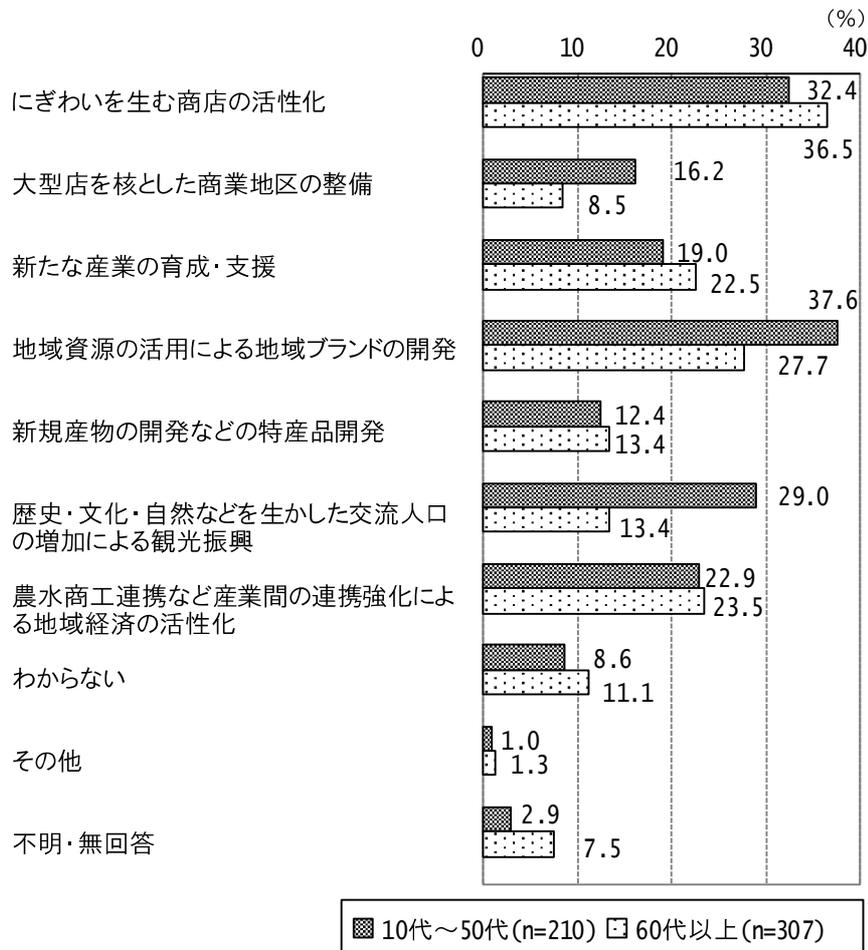
産業振興・活性化策として、「にぎわいを生む商店の活性化」が 33.8%で最も高く、次いで「地域資源の活用による地域ブランドの開発」が 31.5%、「農水商工連携など産業間の連携強化による地域経済の活性化」が 23.1%となっています。

n = 523



問 21×年代

産業振興・活性化策を年代別に見ると、「地域資源の活用による地域ブランドの開発」や「歴史・文化・自然などを生かした交流人口の増加による観光振興」などでは「10代～50代」の割合が高く、「にぎわいを生む商店の活性化」や「新たな産業の育成・支援」などでは「60代以上」が高くなっており、年代による差が見られます。

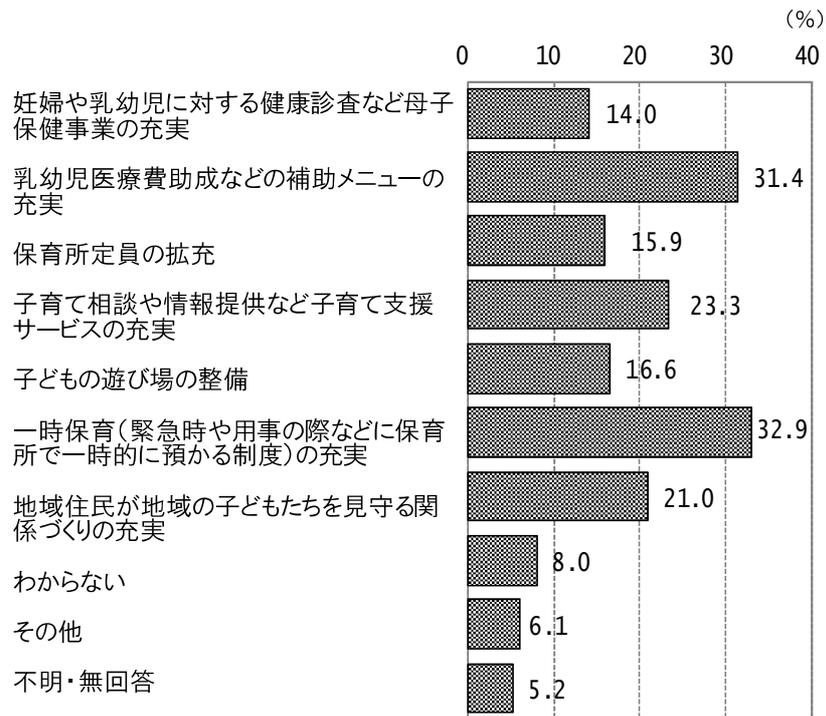


【子育て環境】

問 22 尾鷲市も少子化が重要な課題となっています。あなたは、少子化に対応するにはどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

少子化への対応として、「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」が 32.9%で最も高く、次いで「乳幼児医療費助成などの補助メニューの充実」が 31.4%、「子育て相談や情報提供など子育て支援サービスの充実」が 23.3%となっています。

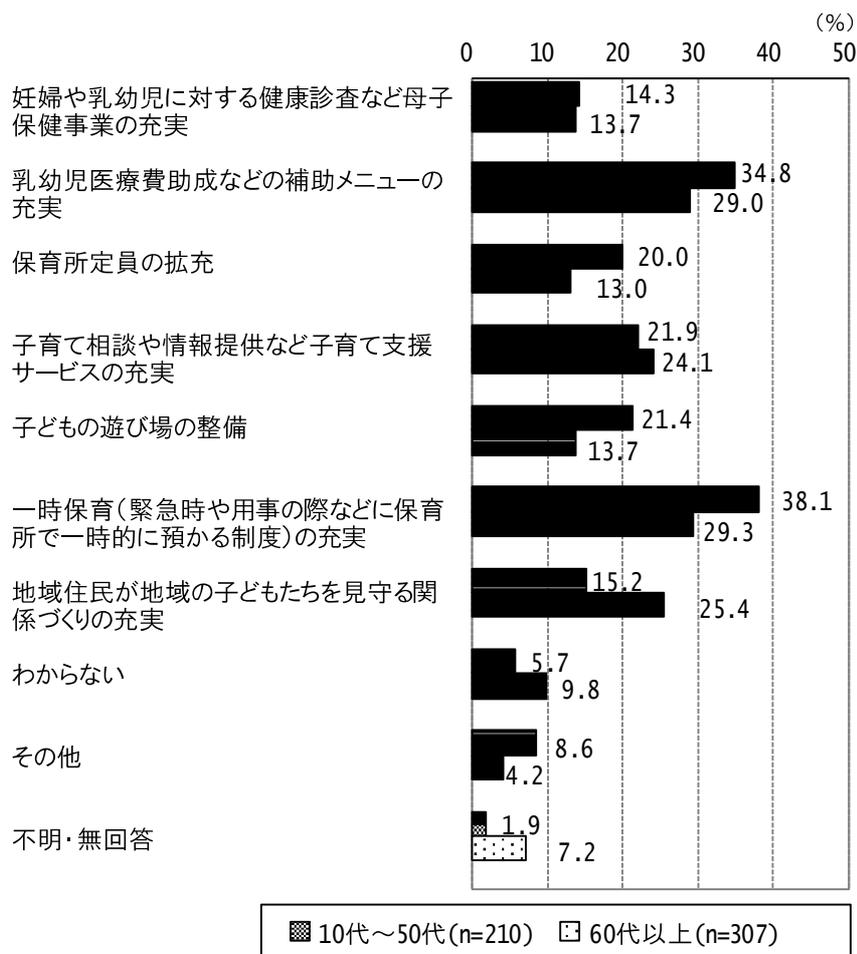
n = 523



その他	件数
働く場の確保	14
子育て支援	4
結婚支援	4
時間外保育や学童保育の充実	2
医療の充実	2
病児・病後児保育の整備	2
保育料の見直し	1
選択肢すべてが必要	1
高齢者ばかり	1
孫が無いのでわからない。	1

問 22×年代

少子化への対応を年代別に見ると、「乳幼児医療費助成などの補助メニューの充実」や「保育所定員の拡充」、「子どもの遊び場の整備」、「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」などでは、「10代～50代」の割合が高く、「子育て相談や情報提供など子育て支援サービスの充実」や「地域住民が地域の子どもたちを見守る関係づくりの充実」では「60代以上」が高く、年代による差が見られます。

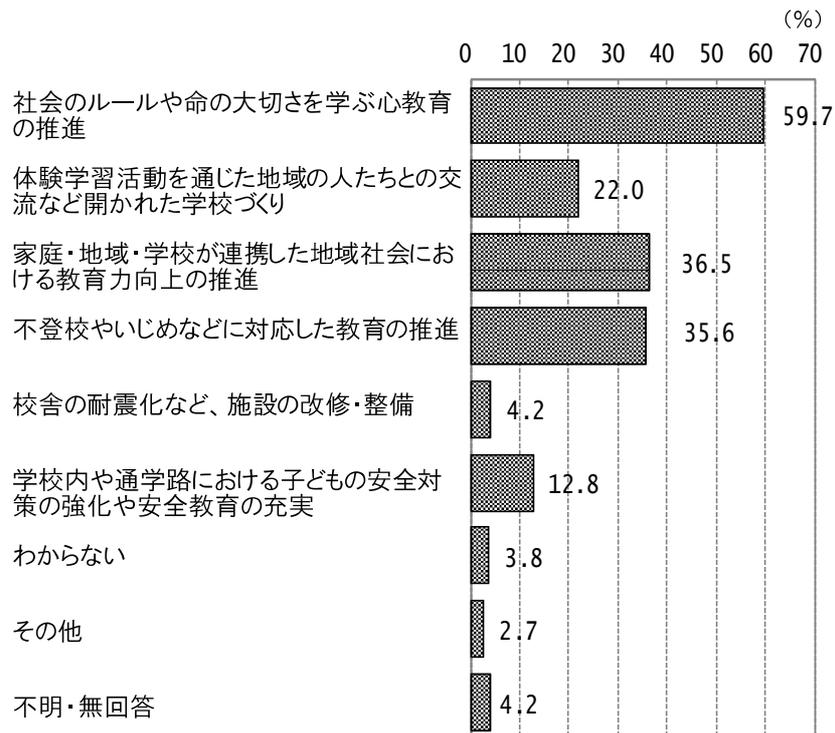


【学校教育】

問 23 あなたは、学校教育を充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。（複数回答）

学校教育の充実策として、「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が 59.7%で最も高く、次いで「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」が 36.5%、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」が 35.6%となっています。

n=523

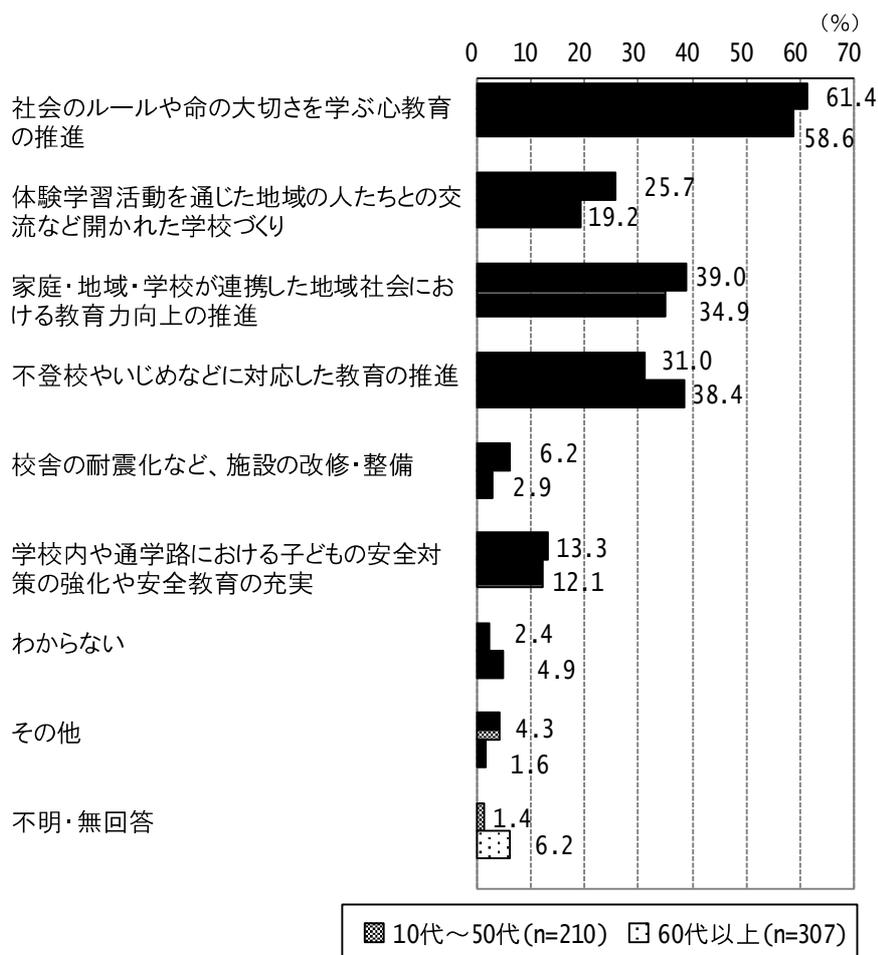


その他	件数
学力の向上	3
教員の質の向上	3
学校の適正規模・適正配置	2
教育予算の拡充	1
スポーツ施設の充実	1
地域の意識改革	1
選択肢すべて必要	1
子どもがいない	1
選択肢すべて頑張ってやっている	1

問 23×年代

学校教育の充実策を年代別に見ると、各年代とも「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」や「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」が上位となっています。

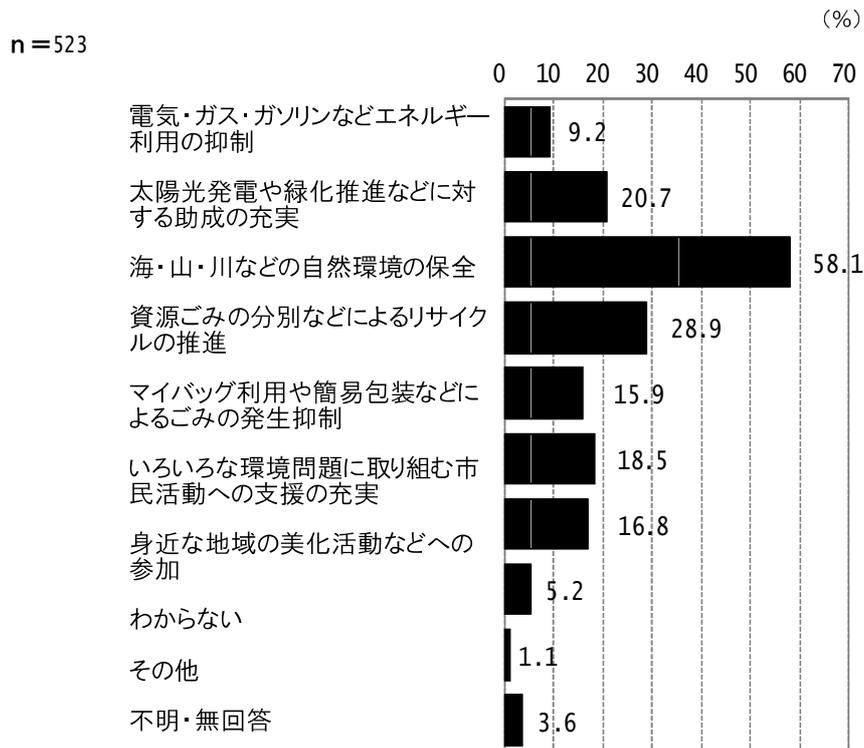
また、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」では「60代以上」の割合が高くなっていますが、その他は「10代～50代」の割合が高くなっています。



【環境】

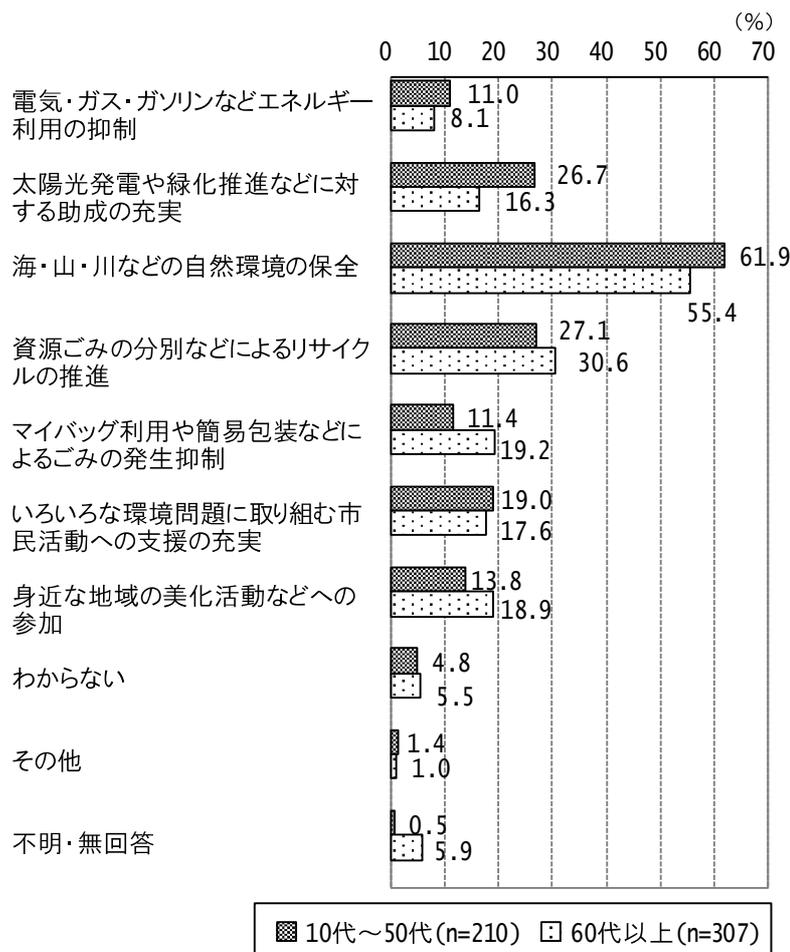
問 24 あなたは、環境を良くするためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

環境を良くする方策として、「海・山・川などの自然環境の保全」が 58.1%で最も高く、次いで「資源ごみの分別などによるリサイクルの推進」が 28.9%、「太陽光発電や緑化推進などに対する助成の充実」が 20.7%となっています。



問 24×年代

環境を良くする方策を年代別に見ると、各年代ともに「海・山・川などの自然環境の保全」が最も高くなっています。「海・山・川などの自然環境の保全」や「太陽光発電や緑化推進などに対する助成の充実」、「電気・ガス・ガソリンなどエネルギー利用の抑制」などでは、「10代～50代」の割合が高く、「資源ごみの分別などによるリサイクルの推進」や「マイバッグ利用や簡易包装などによるごみの発生抑制」、「身近な地域の美化活動などへの参加」では「60代以上」が高く、年代による差が見られます。

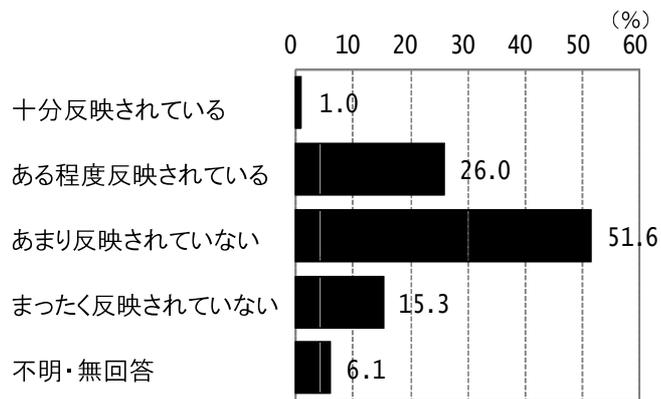


【市民意見の反映】

問 25 あなたは、現在の市政に市民の意向がどの程度反映されていると考えていますか。

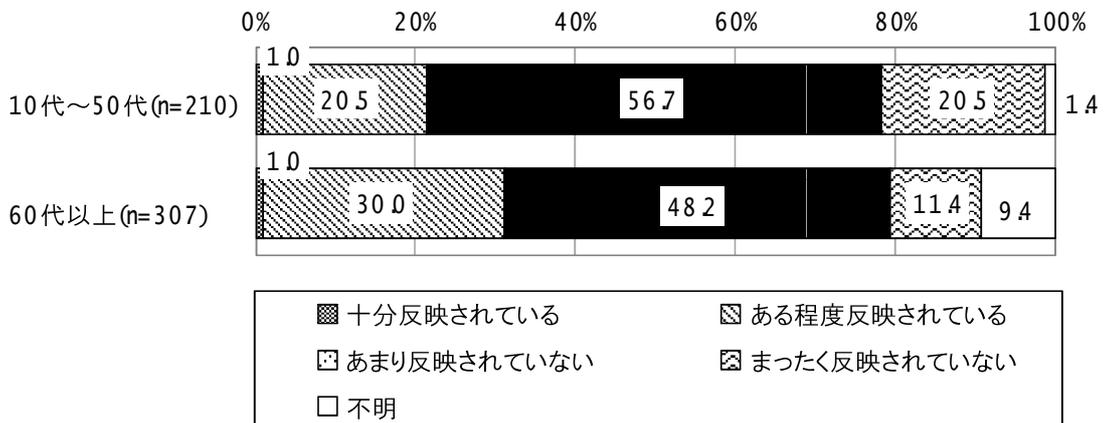
市政への市民意向の反映状況として、「あまり反映されていない」が51.6%、「まったく反映されていない」が15.3%と、合計で7割弱が『反映されていない』と回答しています。

n=523



問 25×年代

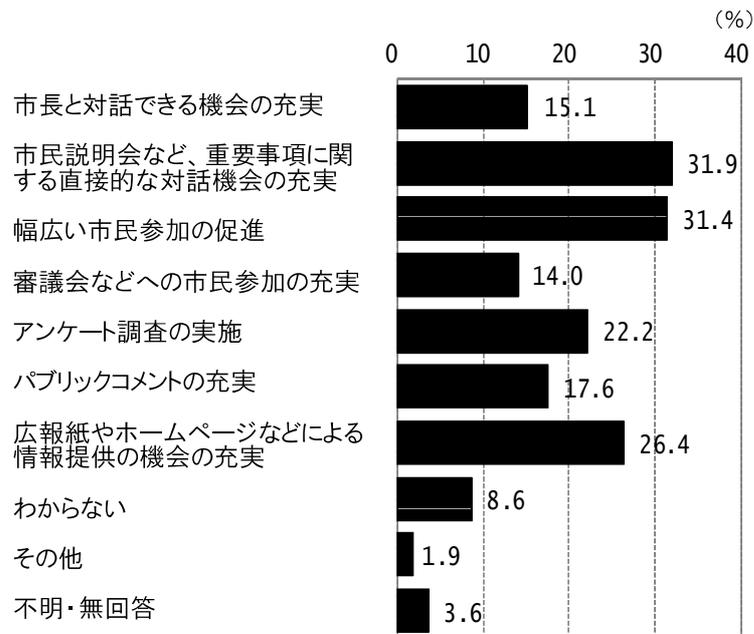
市政への市民意向の反映状況を年代別に見ると、『反映されていない』は、「10代～50代」では8割弱、「60代以上」では約6割となっています。



問 26 あなたは、できるだけ多くの市民の意向を市政に反映させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

市民意向を市政に反映させる方策として、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が 31.9%、「幅広い市民参加の促進」が 31.4%と高く、次いで「広報紙やホームページなどによる情報提供の機会の充実」が 26.4%となっています。

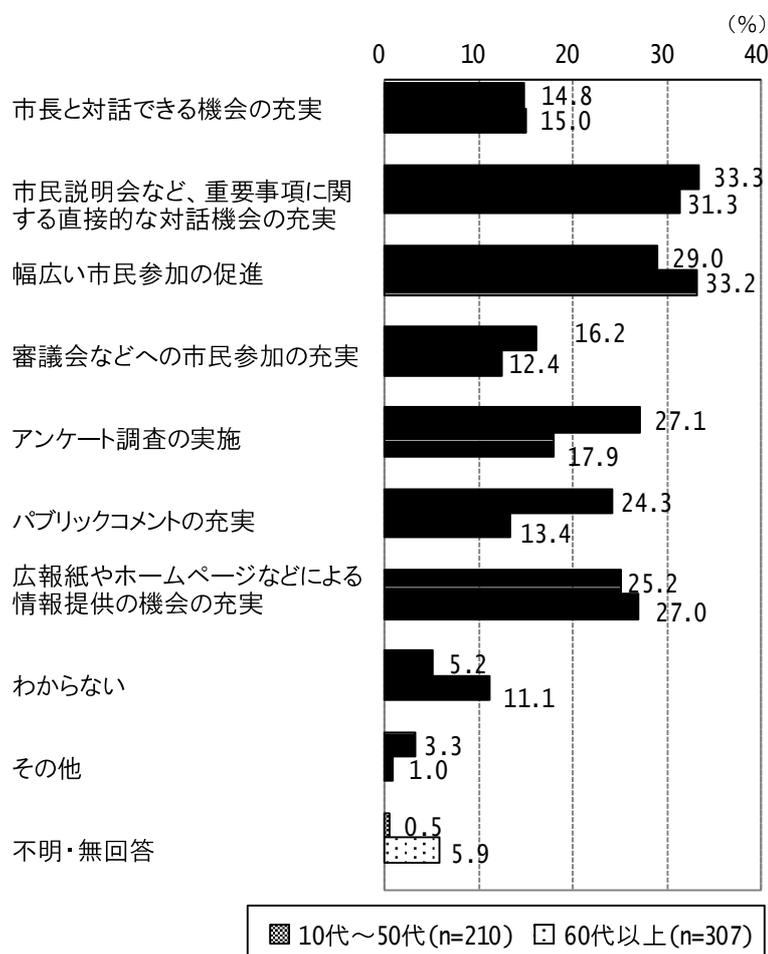
n=523



問 26×年代

市民意向を市政に反映させる方策を年代別に見ると、「10代～50代」では「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が、「60代以上」では「幅広い市民参加の促進」がそれぞれ最も高くなっています。

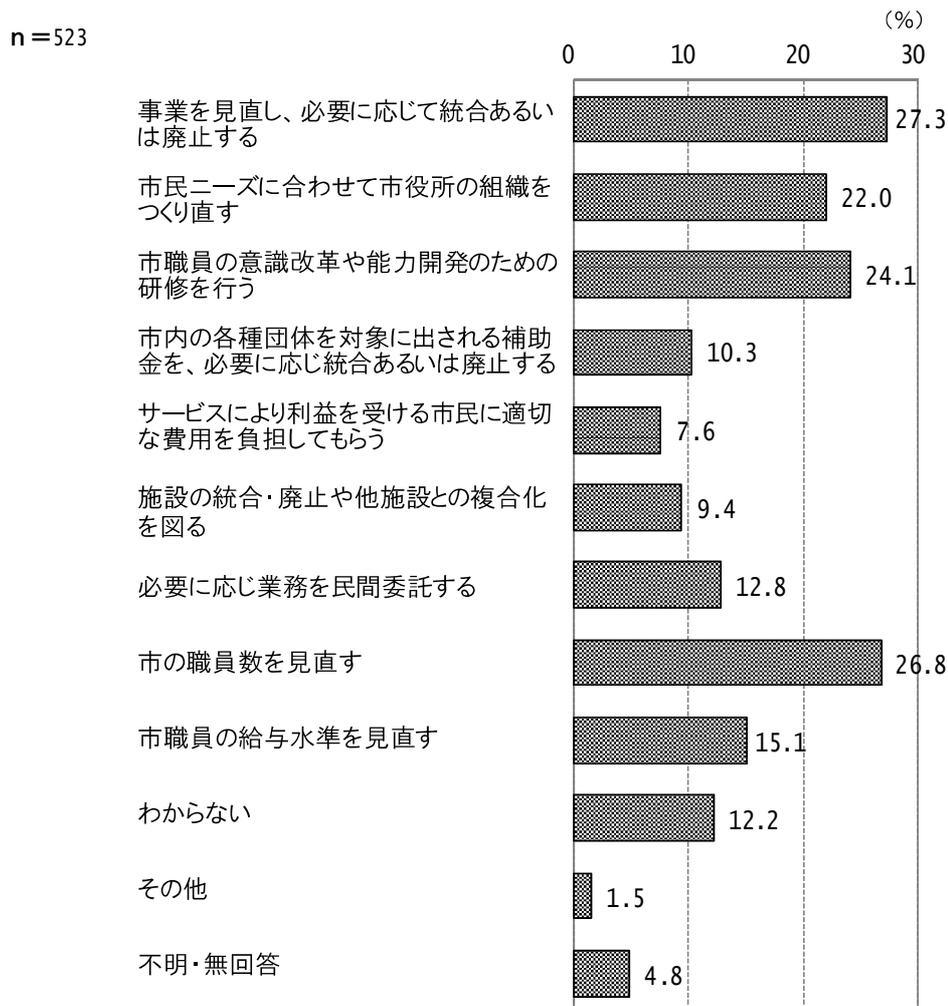
「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」や「審議会などへの市民参加の充実」や「アンケート調査の実施」、「パブリックコメントの充実」などでは「10代～50代」の割合が高く、「市長と対話できる機会の充実」や「幅広い市民参加の促進」、「広報紙やホームページなどによる情報提供の機会の充実」では「60代以上」の割合が高くなっており、年代による差が見られます。



【行政改革】

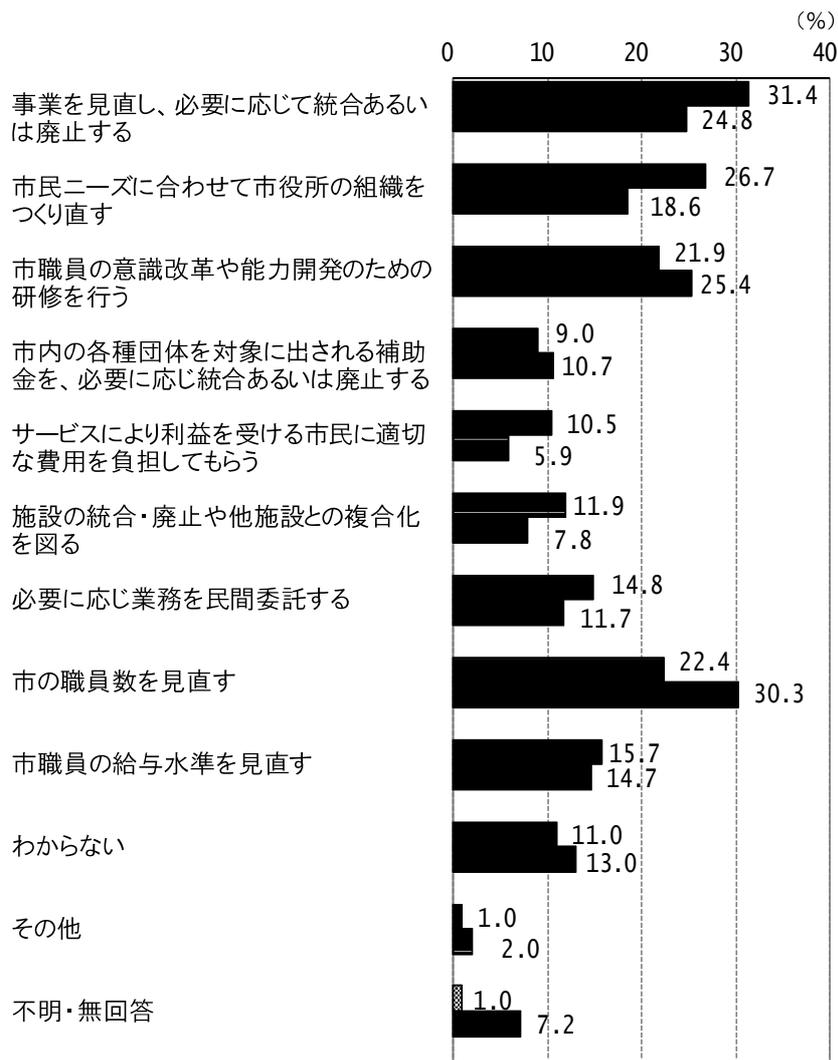
問 27 あなたは、効果的かつ効率的な行政サービスを提供するためには、どのような方策が必要だと考えますか。（複数回答）

効率的かつ効果的な行政サービスの提供方策として、「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止する」が27.3%で最も高く、次いで「市の職員数を見直す」が26.8%、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」が24.1%となっています。



問 27×年代

効率的かつ効果的な行政サービスの提供方策を年代別に見ると、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」や「市の職員数を見直す」、「市内の各種団体を対象に出される補助金を、必要に応じ統合あるいは廃止する」では「60代以上」の割合が高くなっていますが、「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止する」や「市民ニーズに合わせて市役所の組織を作り直す」、「サービスにより利益を受ける市民に適切な費用を負担してもらう」、「必要に応じ業務を民間委託する」などその他の選択肢ではいずれも「10代～50代」が高く、年代による差が見られます。



■ 10代～50代(n=210) □ 60代以上(n=307)

4. 暮らしの満足度と今後の重要度について

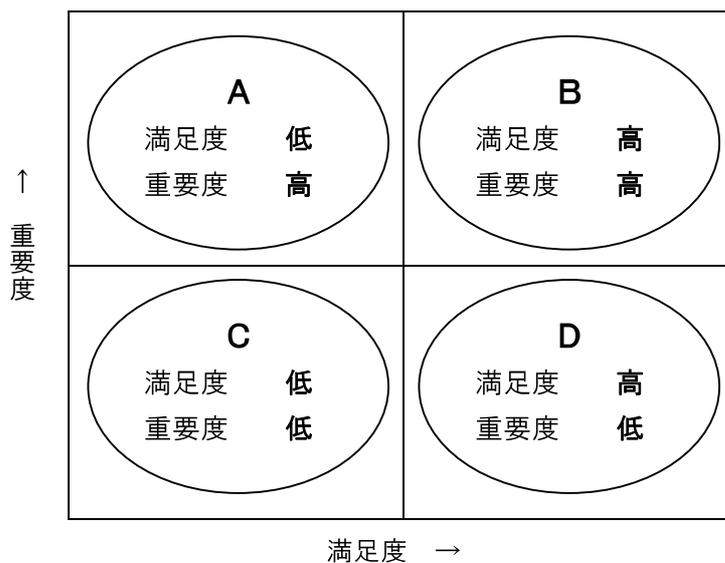
問 28 市が実施している取り組みやサービスについて、現在の「満足度」と今後の「重要度」をお聞かせください。

満足度の点数化については、「満足」＝5点、「どちらかといえば満足」＝4点、「普通」＝3点、「どちらかといえば不満」＝2点、「不満」＝1点として、「わからない」「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

重要度の点数化については、「重要」＝5点、「どちらかといえば重要」＝4点、「普通」＝3点、「どちらかといえば重要でない」＝2点、「重要でない」＝1点として、「わからない」「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

市の取り組みやサービスの分野 37 項目について、上記の基準で点数化し、散布図に落とし込みました。

■結果の分類



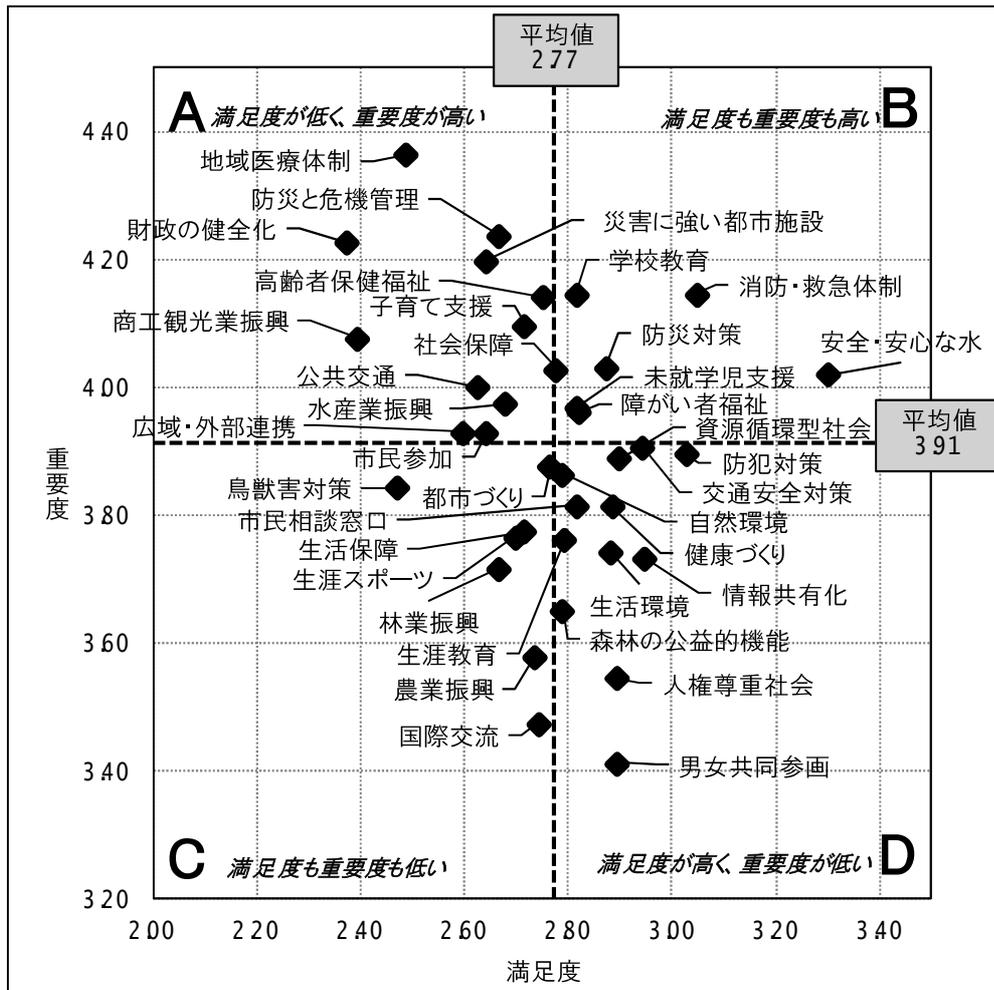
領域	説明
A	重要度が高いにも関わらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C	満足度も重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
D	満足度は高く、重要度が低いため、今後場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

※上記の領域については、あくまで 37 項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であるため、A～Dは絶対的な区分ではありません。

■満足度・重要度の散布図

満足度と重要度の散布図について、「地域医療体制」「財政の健全化」「商工観光業振興」「防災と危機管理」などがAの領域に分類され、今後優先して充実することが求められている項目となります。

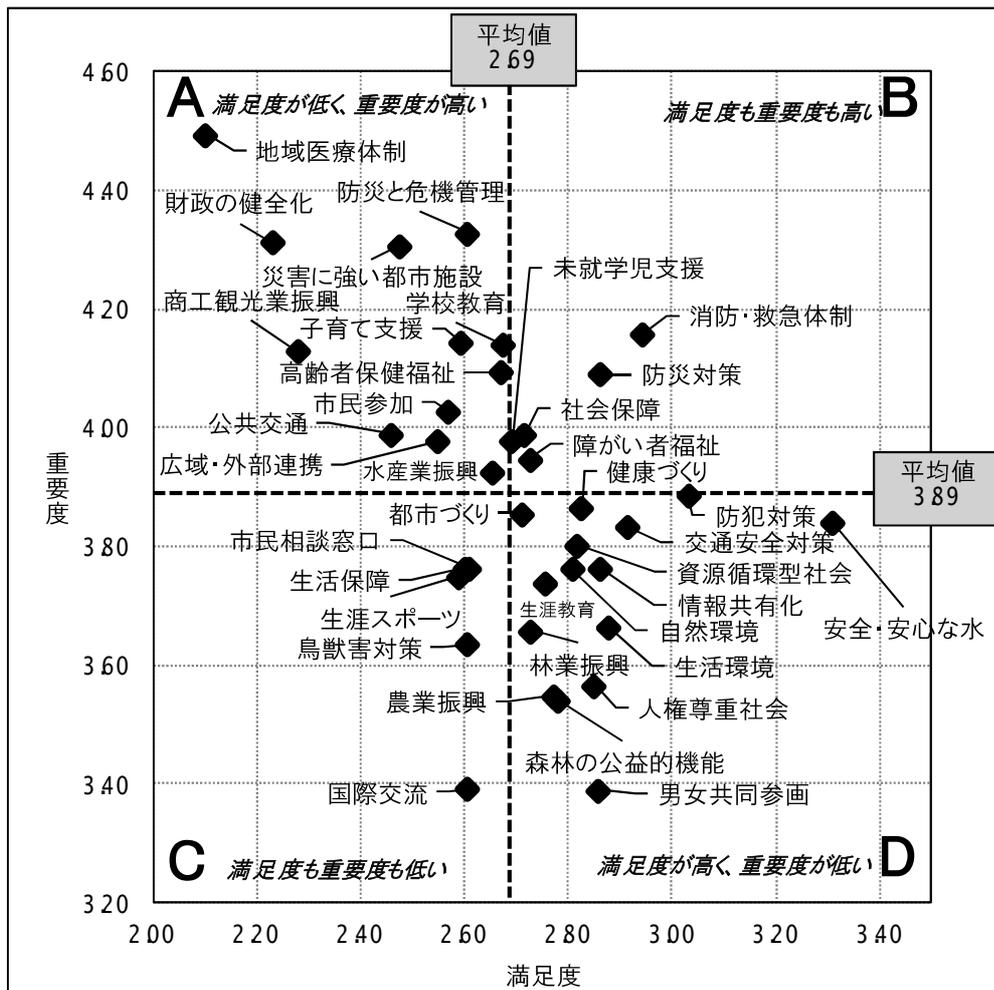
一方で、「男女共同参画の推進」「人権尊重社会」「情報共有化」などがDの領域に分類されています。



■満足度・重要度の散布図（10代～50代）

「10代～50代」の満足度と重要度の散布図について、全体と概ね同様の傾向となっていますが、平均値は満足度、重要度ともに全体よりもやや低くなっています。

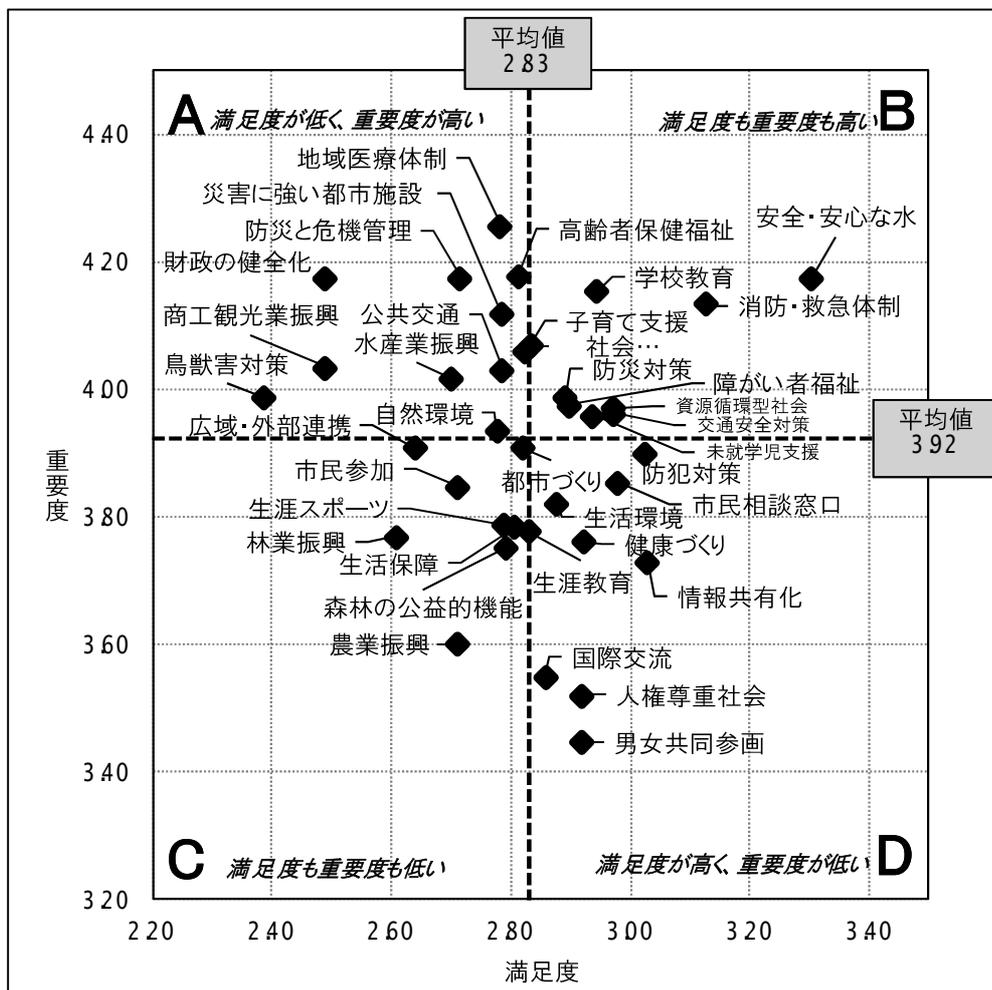
また、全体との比較では、「学校教育」がBの領域からAの領域へ、「安全・安心な水」がBの領域からDの領域へ、「市民相談窓口」がDの領域からCの領域へ、「林業振興」と「農業振興」がAの領域からDの領域へと移動しています。



■満足度・重要度の散布図（60代以上）

「60代以上」の満足度と重要度の散布図について、全体と概ね同様の傾向となっていますが、平均値は満足度、重要度ともに全体よりも高くなっています。

また、全体との比較では、「子育て支援」がAの領域からBの領域へ、「市民参加」と「広域・外部連携」がAの領域からCの領域へ、「鳥獣害対策」がCの領域からAの領域へ、「国際交流」がCの領域からDの領域へ、「自然環境」がDの領域からAの領域へ、「交通安全対策」と「資源循環型社会」がDの領域からBの領域へ、「森林の広域的機能」と「都市づくり」がDの領域からCの領域へ移動するなどの変化が見られます。



■満足度・重要度一覧

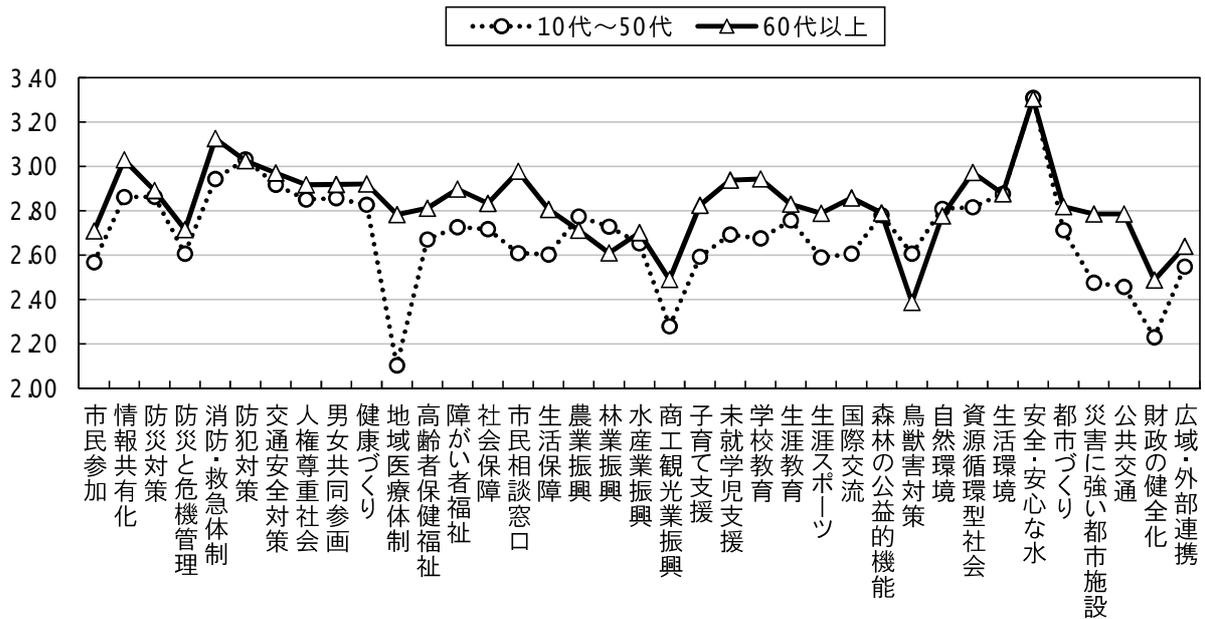
	満足度	重要度
(1) 市民参加によるまちづくり 地域課題を解決するため、共に話し合い、活動している取り組みなど	2.64	3.93
(2) 情報共有化 広報紙、市ホームページなどによる行政情報の提供など	2.95	3.73
(3) 市民参加による防災対策 防災体制づくりの自立的・持続的な取り組みや、安全で安心な取り組みなど	2.87	4.03
(4) 防災と危機管理 土砂災害や雨水浸水などに対応できる都市基盤、避難場所、防災情報の提供、自主防災組織の整備、広域自治体間協力など	2.66	4.24
(5) 消防・救急体制 火災や地震災害等における消火・救急・救助活動確保のための人員体制及び車両・資機材の整備、また、応急手当の普及講習、消防団との連携など	3.05	4.15
(6) 防犯対策 犯罪の不安を感じる事のない安全で安心な取り組みなど	3.03	3.89
(7) 交通安全 交通安全意識が高まり、交通事故に遭わない、交通事故が起きない取り組みなど	2.94	3.90
(8) 人権尊重社会 人権に関する学習会や人権相談など、一人ひとりが互いに人権を尊重し合う取り組みなど	2.89	3.54
(9) 男女共同参画の推進 性別にとらわれず、それぞれのライフスタイルや価値観を尊重し合う取り組みなど	2.90	3.41
(10) 健康づくり ライフステージに応じた健康づくり事業、母子保健事業・介護予防事業など	2.88	3.81
(11) 地域医療体制 尾鷲総合病院の診療体制や設備、地域内の医院・診療所など	2.49	4.36
(12) 高齢者保健福祉 いつまでも元気に社会のなかで活躍し、介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らすことができる取り組みなど	2.75	4.14
(13) 障がい者福祉 自立支援などの福祉サービスにより、住み慣れた地域で暮らせる取り組みなど	2.82	3.96
(14) 社会保障の確保 安心して生活ができる、社会保障制度が健全に運営される取り組みなど	2.78	4.03
(15) 市民相談窓口の確保 必要ときに適切な相談を受けることができる取り組みなど	2.82	3.81
(16) 生活保障の確保 必要ときに適切な支援を受けることができる取り組みなど	2.72	3.77
(17) 農業振興 さまざまな形態の農業活動が行われ、農地の保全・管理、活用がされる取り組みなど	2.73	3.58
(18) 林業振興 経営基盤が強化され、施業を継続的に実施できる取り組みなど	2.67	3.72
(19) 水産業振興 水揚げ量の拡大、生産体系の見直しや生産性及び付加価値の向上により、水産業が持続できる取り組みなど	2.68	3.97
(20) 商工観光業振興 活発な産業活動により、魅力ある雇用の場が創出される取り組みなど	2.39	4.08
(21) 子育て支援 保育サービス、子育てに関する相談体制や情報提供、放課後の子どもの安全な活動場所などの環境づくりなど	2.72	4.10
(22) 未就学児支援 未就学児が健やかに成長できる取り組みなど	2.82	3.97
(23) 学校教育 一人ひとりの個性や能力を伸ばし、確かな学力、豊かな心、健康な体づくりにより、笑顔いっぱいの子どもを育む取り組みなど	2.82	4.15
(24) 生涯教育の推進 文化・生涯学習を行うための設備の管理、その指導者の育成支援など	2.79	3.76
(25) 生涯スポーツの推進 年齢、体力、好みに応じて多くのスポーツに触れ、楽しくスポーツが親しめる取り組みなど	2.70	3.77
(26) 国際交流の推進 多様な交流ができ、国際感覚豊かな人づくりがされる取り組みなど	2.74	3.47
(27) 森林の公益的機能 適正に管理・保全され、森林の公益的機能が確保される取り組みなど	2.79	3.65

(28) 鳥獣害対策の推進 野生鳥獣との共生を図り、鳥獣害が発生しない取り組みなど	2.47	3.84
(29) 自然環境 自然環境や生態系に配慮し、良好な自然が残る取り組みなど	2.79	3.86
(30) 資源循環型社会の推進 ごみの発生抑制・再利用・再生利用が進んだ、環境に負荷をかけない取り組みなど	2.90	3.89
(31) 良好な生活環境の保全 環境負荷を低減し、快適な生活が営める取り組みなど	2.88	3.74
(32) 安全・安心な水の確保 安全で安心な水が安定供給される取り組みなど	3.30	4.02
(33) 都市づくり 安心して暮らせる都市基盤が整備される取り組みなど	2.77	3.88
(34) 災害に強い都市施設 災害に強い都市施設により、安心して快適に暮らせる取り組みなど	2.64	4.20
(35) 公共交通 安全で利便性が高く、環境にやさしい公共交通により快適に暮らし、移動ができる取り組みなど	2.63	4.00
(36) 財政の健全化 行政組織のスリム化などの構造改革、財政運営の見直し、職員の意識改革を行い、持続可能な行政体質への変革を図るなど	2.37	4.22
(37) 広域・外部連携の推進 近隣市町や産学官の連携、共創による新たなまちづくりがされる取り組みなど	2.60	3.93
平均	2.77	3.91

■満足度×年代

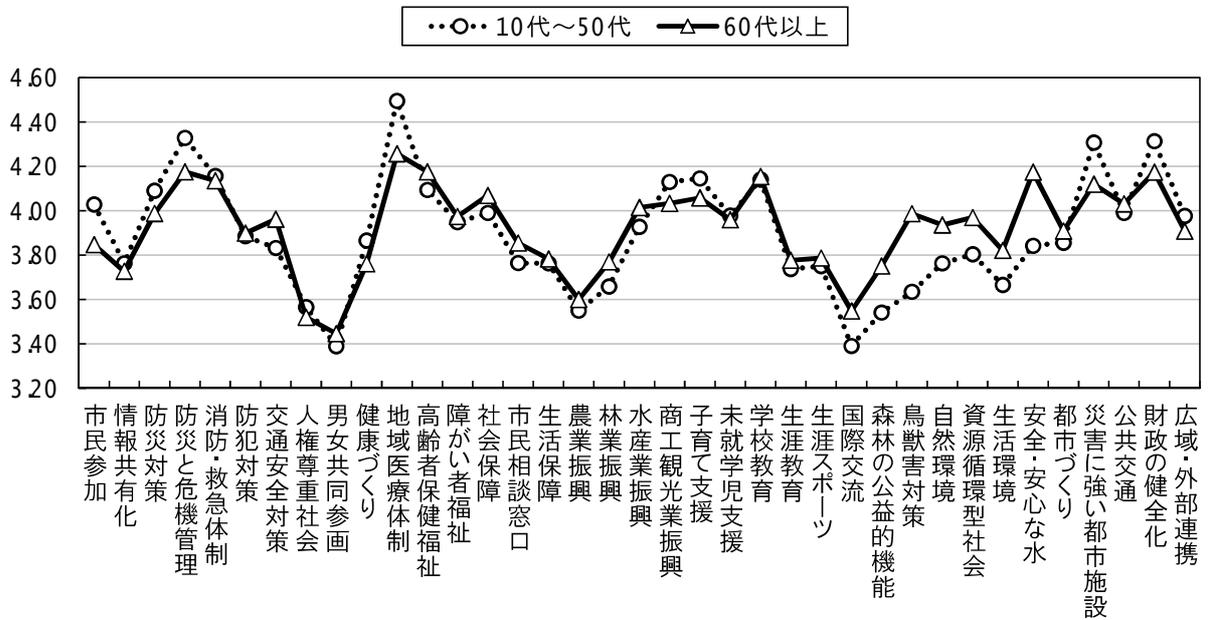
満足度について年代別に見ると、ほとんどの項目で「60代以上」の方が高くなっていますが、「防犯対策」「農業振興」「林業振興」「鳥獣害対策」「自然環境」では「10代～50代」の方が高くなっています。

また、「地域医療体制」や「市民相談窓口」、「災害に強い都市施設」、「公共交通」などでは、年代によって大きな差が見られます。



■重要度×年代

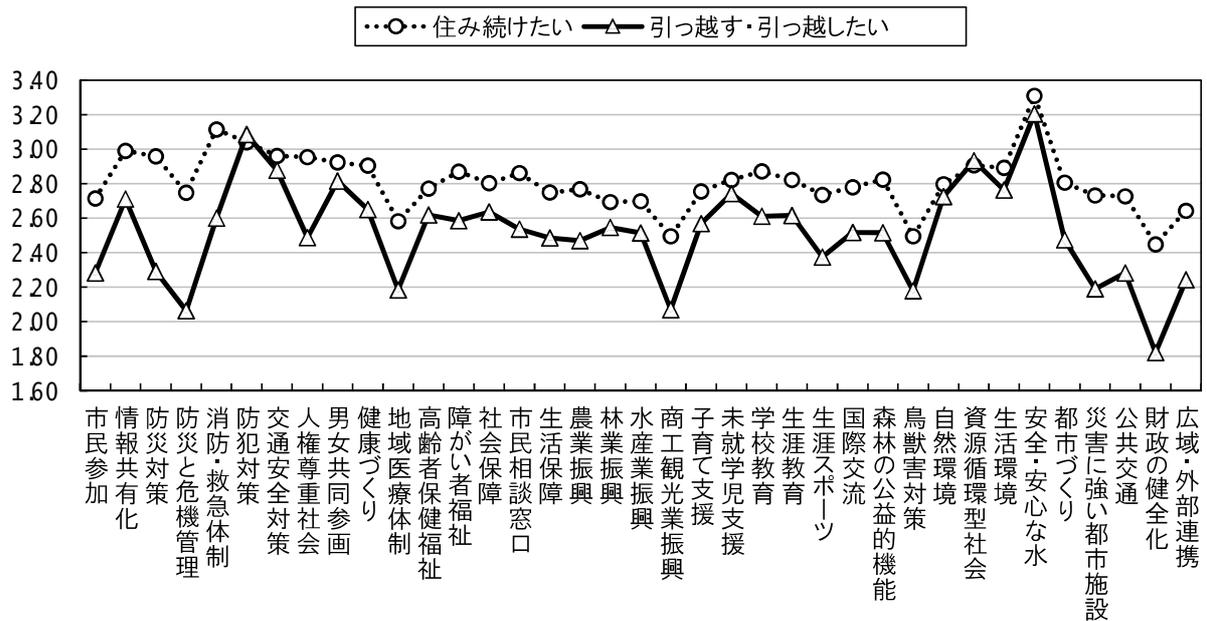
重要度について年代別に見ると、「地域医療体制」や「災害に強い都市施設」、「市民参加」などでは「10代～50代」の方が高くなっていますが、「鳥獣害対策」や「安全・安心な水」など主に生活環境分野では、「60代以上」の方が高くなっています。



■満足度×定住意向

満足度について定住意向別に見ると、ほとんどの項目で「住み続けたい」を選んだ方が高い割合となっていますが、「防犯対策」と「資源循環型社会」では、「引っ越す・引っ越したい」を選んだ方のほうが高くなっています。

また、「防災対策」や「防災と危機管理」、「消防・救急体制」、「災害に強い都市施設」、「財政の健全化」などでは、定住意向によって大きな差が見られます。

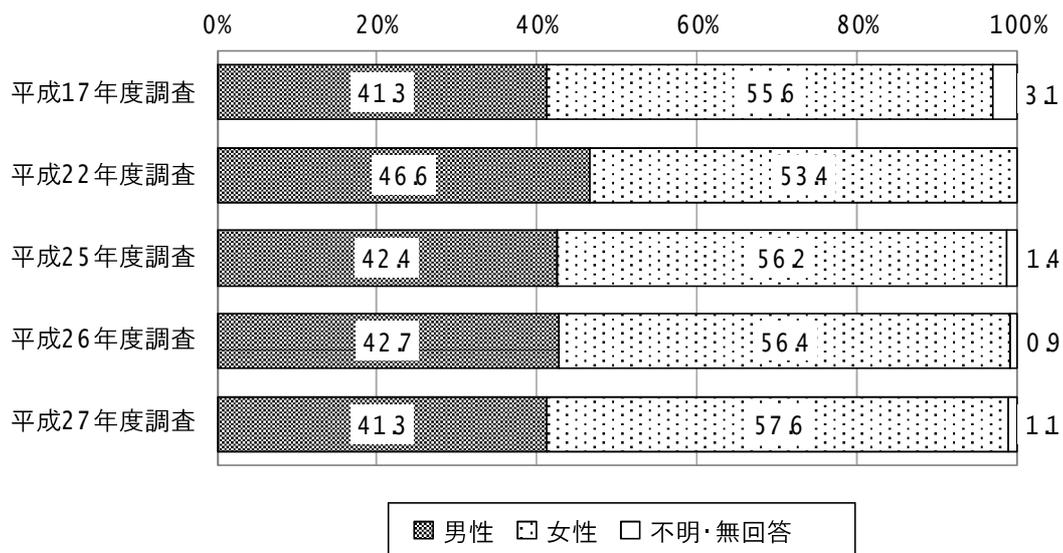


III. 經年比較

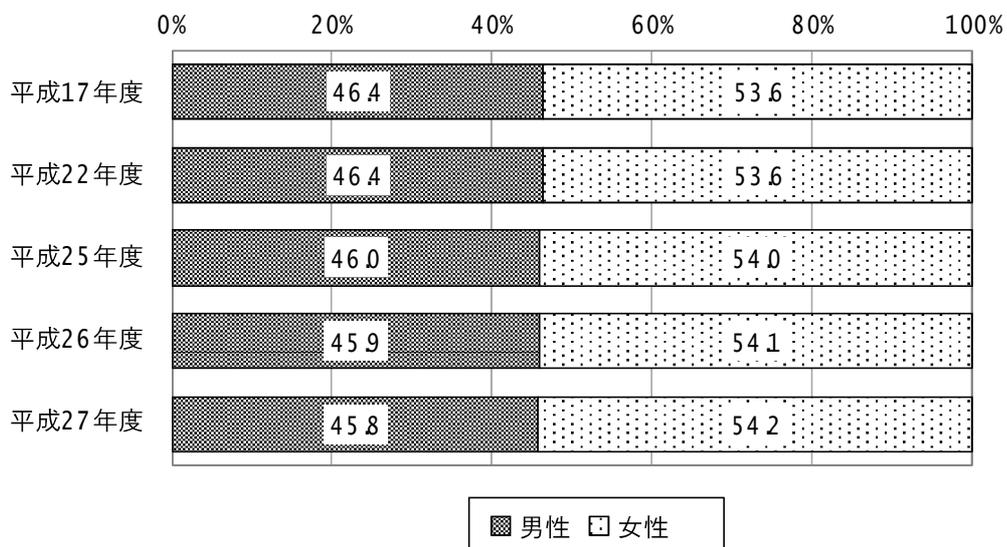
1. 回答者の属性

(1) 性別

回答者の男女の割合は、女性の割合が徐々に上回ってきています。各調査時の住民基本台帳上の割合と比較しても女性が若干上回っています。



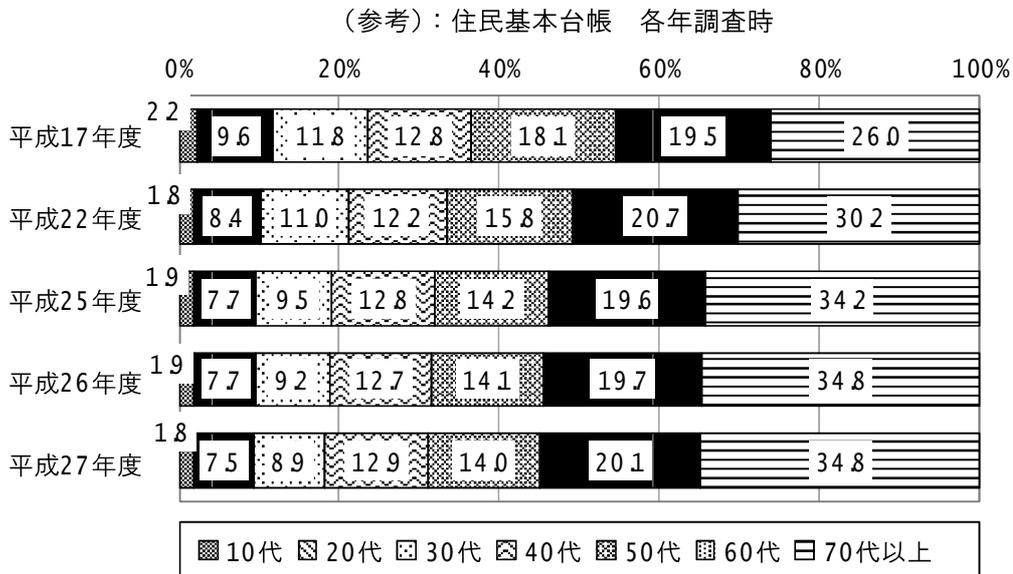
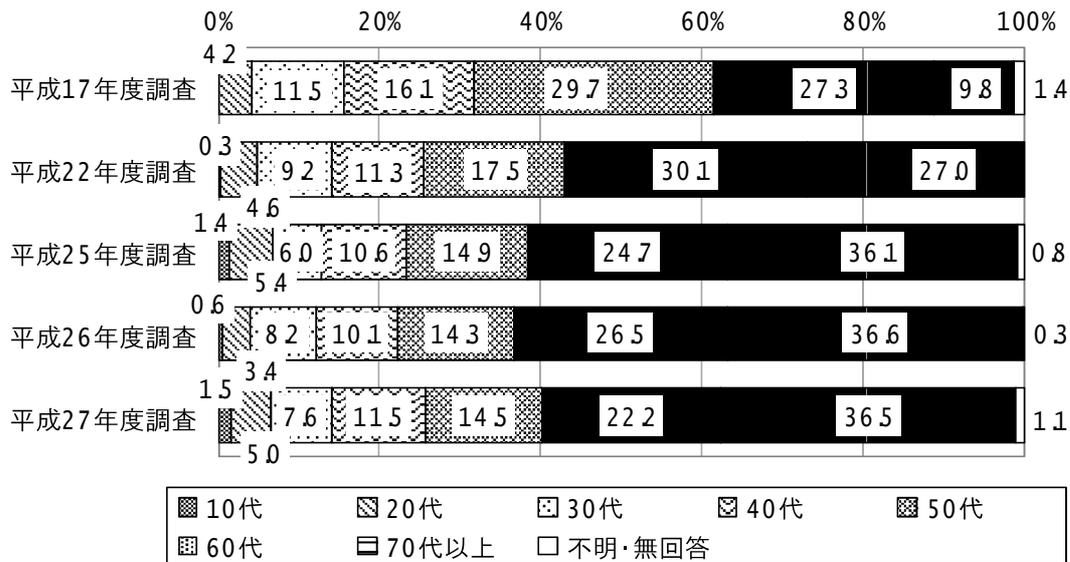
(参考)：住民基本台帳 各年度調査時



※調査対象である、18歳以上の人口の男女別構成比

(2) 年代

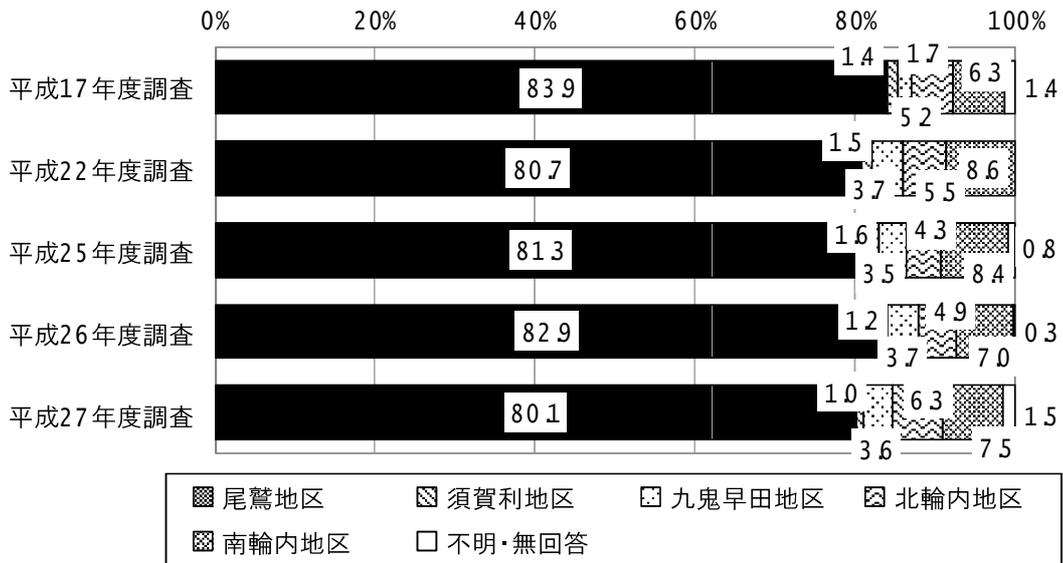
平成 22 年度調査から、「70 代以上」の割合が増加を続けています。また、「20 代」「40 代」「50 代」は平成 26 年度調査から若干増加しています。一方、「60 代」は減少を続けています。60 代以上の回答者が、平成 22 年度調査では全体の半数を上回り、平成 25 年度調査以降は 6 割前後を占めています。各調査時の住民基本台帳の割合と比べると、50 代以上の割合がやや多い傾向にあります。



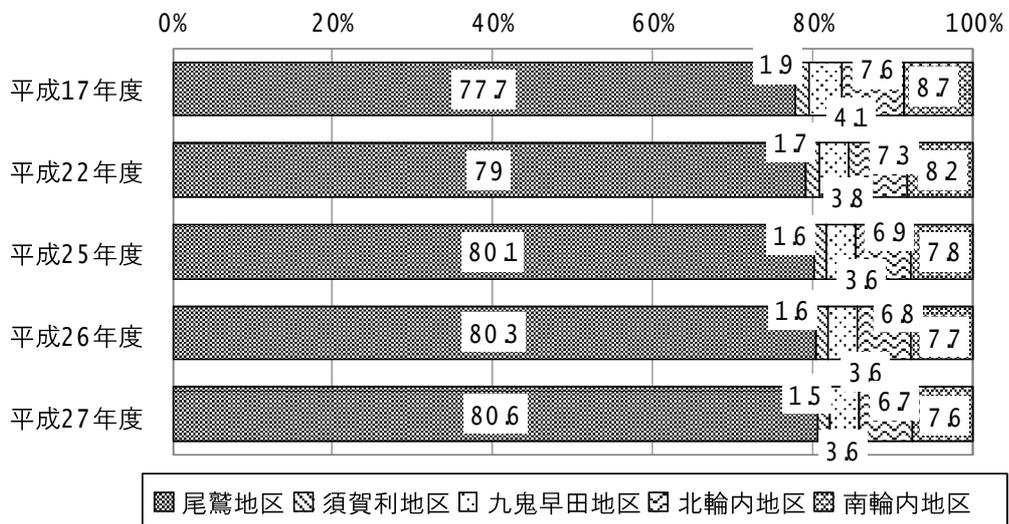
※調査対象である、18 歳以上の人口の年齢別構成比。10 代は 18、19 歳のみ。

(3) 居住地区

回答者の居住地区の割合は、調査年度によってそれほど大きな差異はありませんが、住民基本台帳上の割合と比べると、平成26年度調査までは「尾鷲地区」がやや多く、「北輪内地区」がやや少ない傾向でしたが、平成27年度調査ではほぼ同じ割合になっています。



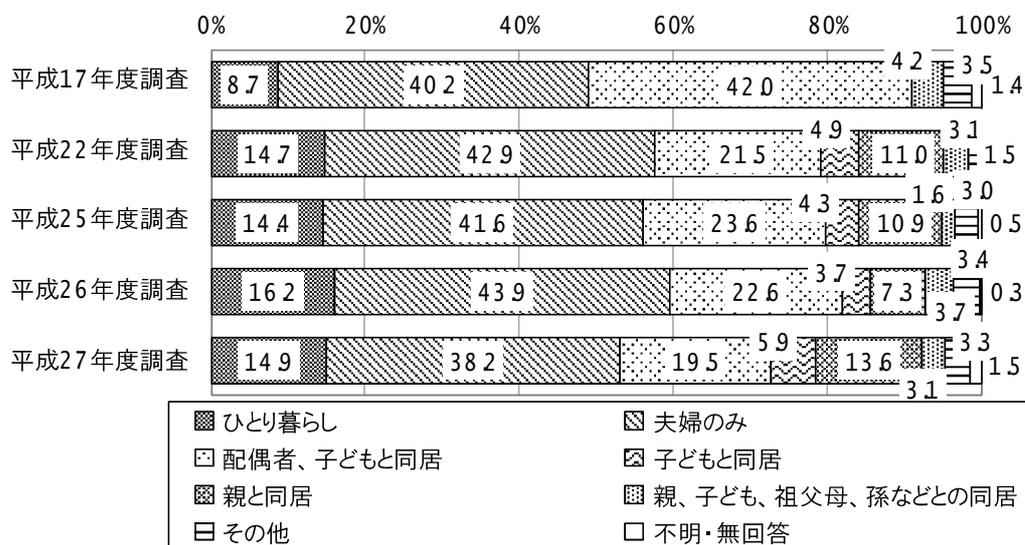
(参考)：住民基本台帳 各年調査時



※調査対象である、18歳以上の人口の居住地区別構成比

(4) 世帯状況

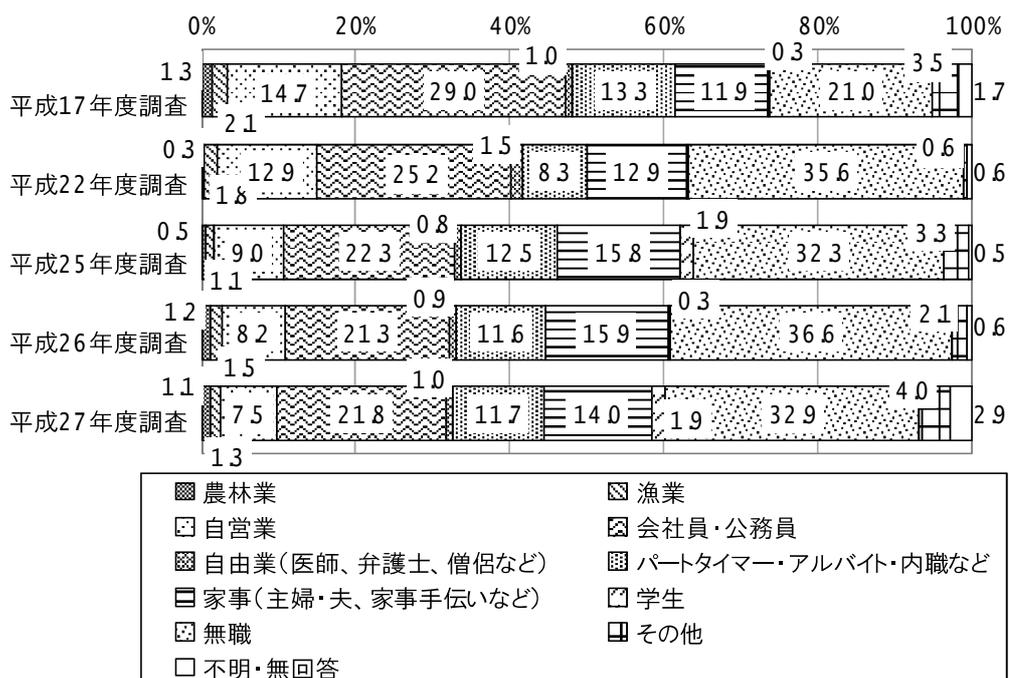
平成17年度調査から、「ひとり暮らし」と「夫婦のみ」の割合が年々増加していましたが、平成27年度調査では「ひとり暮らし」と「夫婦のみ」は減少し、「子どもと同居」と「親と同居」が増加しています。



※平成17年度調査の「配偶者、子どもと同居」42.0%には、平成22年度調査以降の「配偶者、子どもと同居」「子どもと同居」「親と同居」を含みます。

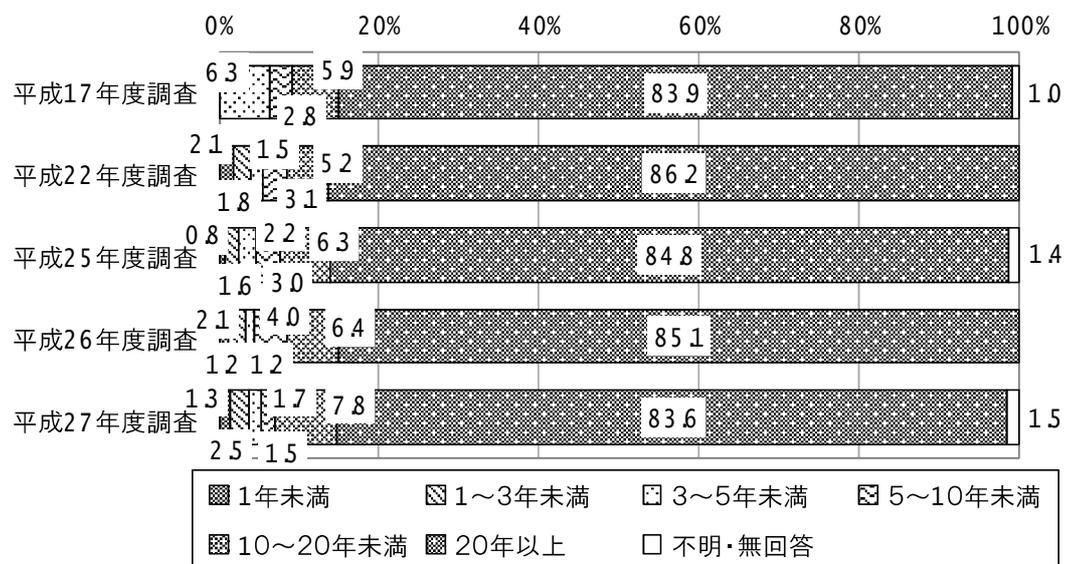
(5) 職業

平成17年度調査に比べ、回答者の高齢化にともない、「無職」の割合が増加しています。



(6) 居住年数

居住年数が「20年以上」の割合は平成22年度調査以降やや減少傾向にあります。一方で「1年未満」「1年～3年未満」「10～20年未満」の割合は微増しており、転入者が定住されていることがうかがえます。

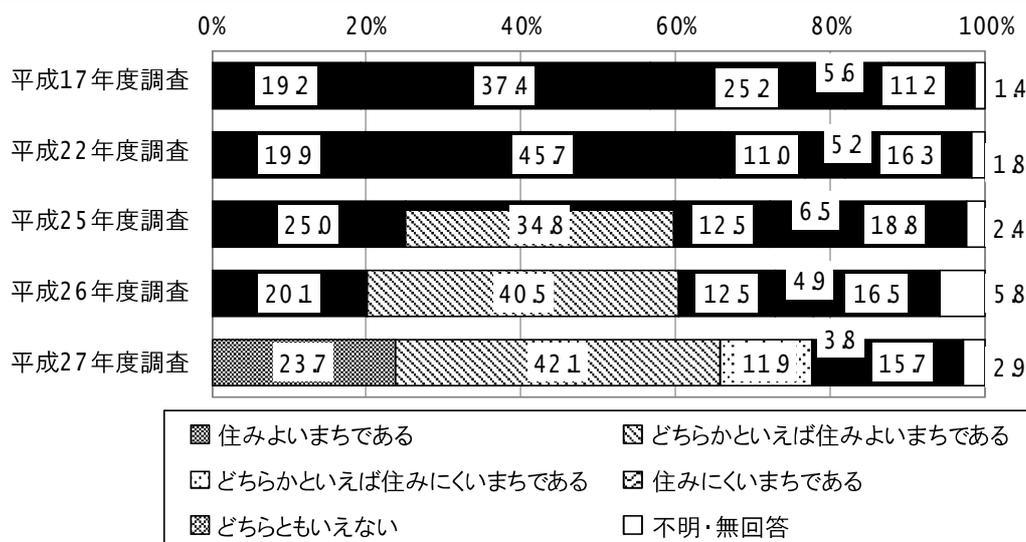


※平成17年度調査の「3～5年未満」6.3%には、平成22年度調査以降の「1年未満」「1～3年未満」「3～5年未満」を含みます。

2. 尾鷲市に対する評価

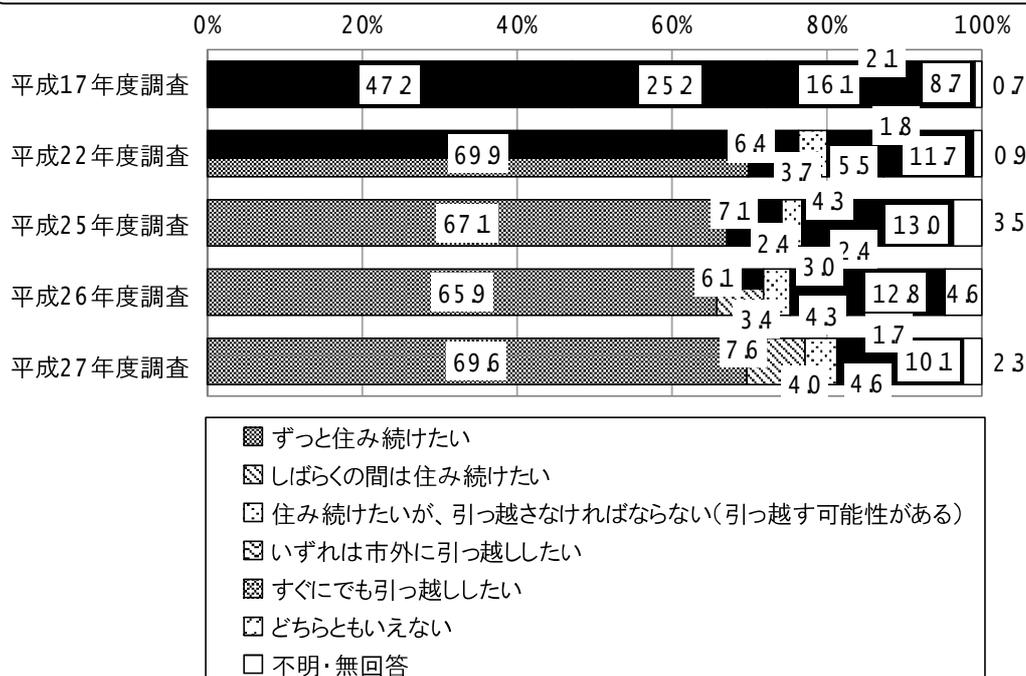
(1) 尾鷲市は住みよいまちか

平成17年度調査以来、「住みよいまちである」と「どちらかといえば住みよいまちである」を合わせた割合が6割前後で推移しているとともに、「住みにくいまちである」の割合が減少傾向にあります。



(2) 尾鷲市に住み続けたいか

平成17年度調査に比べ、「ずっと住み続けたい」の割合が増加しており、「いずれは市外に引っ越したい」の割合も減少していることから、定住意向の高まりが見受けられます。



(3) 不安に感じていること（上位5項目比較）

年度により順位に変動はあるものの、毎年上位を占める項目はほぼ同じものであることが分かります。

「老後の不安」の割合は平成26年度調査と平成27年度調査では連続して50%を超えており、また、「経済的な不安」は、平成26年度調査から平成27年度調査は2.5ポイント上昇しています。高齢化が進むことにより将来の生活に不安を抱く人が増えていることが見受けられます。

平成17年度調査			平成22年度調査	
	項目	割合	項目	割合
1位	老後の不安	49.0%	老後の不安	51.8%
2位	地震や津波、火災などの災害に対する不安	41.3%	健康面での不安	36.1%
3位	健康面での不安	30.8%	地震や豪雨、火災などの災害に対する不安	31.8%
4位	経済的な不安	29.4%	経済的な不安	25.8%
5位	子どもの進学・就職に関する不安	9.1%	子どもの進学・就職に対する不安	15.6%
平成25年度調査			平成26年度調査	
	項目	割合	項目	割合
1位	地震や津波、火災などの災害に対する不安	49.7%	老後の不安	53.0%
2位	老後の不安	45.4%	地震や豪雨、火災などの災害に対する不安	37.8%
3位	健康面での不安	28.5%	健康面での不安	32.6%
4位	経済的な不安	17.9%	経済的な不安	22.0%
5位	特に不安はない	9.2%	子どもの進学・就職に対する不安	9.5%
平成28年度調査				
	項目	割合		
1位	老後の不安	52.2%		
2位	地震や豪雨、火災などの災害に対する不安	36.9%		
3位	健康面での不安	29.8%		
4位	経済的な不安	24.5%		
5位	子どもの進学・就職に対する不安	9.2%		

(4) 尾鷲市の将来イメージ（上位5項目比較）

平成 17 年度調査以来、「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」は 1 位を維持しており、「働きがいのある職場が多く、活気のあるまち」は 3 位以内を維持しています。また、平成 25 年度調査以降は、東日本大震災や各地の豪雨災害等の発生を受けて、「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」が 3 位以内に入ってきています。

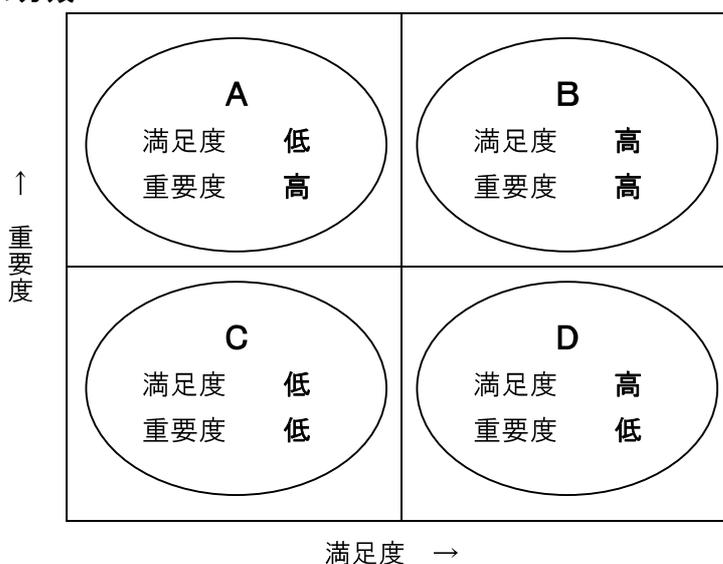
平成 17 年度調査			平成 22 年度調査		
	項目	割合	項目	割合	
1 位	保健・医療施設がよく整備されたまち	50.7%	保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち	59.5%	
2 位	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち	48.3%	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち	38.7%	
3 位	海や山、川などに自然が残るまち	35.3%	子どもからお年寄りまで安心して元気に暮らせるまち	30.1%	
4 位	道路や交通の便がよいまち	26.6%	海や山、川などの自然がたくさん残っているまち	27.6%	
5 位	公害、環境破壊が少なく、安心して生活できるまち	25.5%	将来にわたって健全な財政運営を行うまち	24.5%	
平成 25 年度調査			平成 26 年度調査		
	項目	割合	項目	割合	
1 位	保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち	50.0%	保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち	52.4%	
2 位	地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち	39.1%	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち	36.0%	
3 位	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち	34.0%	地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち	30.5%	
4 位	子どもからお年寄りまで安心して元気に暮らせるまち	22.0%	子どもからお年寄りまで安心して元気に暮らせるまち	25.6%	
5 位	海や山、川などの自然がたくさん残っているまち	20.7%	海や山、川などの自然がたくさん残っているまち	20.7%	
平成 28 年度調査					
	項目	割合			
1 位	保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち	52.4%			
2 位	地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち	34.4%			
3 位	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち	31.5%			
4 位	海や山、川などの自然がたくさん残っているまち	24.5%			
5 位	子どもからお年寄りまで安心して元気に暮らせるまち	23.1%			

3. まちづくりの満足度・重要度経年比較

まちづくりの満足度、重要度については、各年度の調査で設問項目等が異なっているため、単純比較はできません。

しかし、選択肢は異なっているものの、回答結果を5点満点で計算する方法等は同じ処理をしているため、経年比較は、それぞれの年度の調査の項目間の相対的な評価同士を比較して行います。

(参考) 結果の分類



領域	説明
A	重要度が高いにも関わらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C	満足度は低いものの重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
D	満足度が高く、重要度が低いため、今後、場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

※上記の領域については、あくまで設問項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であるため、A～Dは絶対的な区分ではありません。

(参考) 平均点の変化

	満足度	重要度	備考
平成 17 年度調査	2.40	4.20	いずれも「最低点」は1点、「最高点」は5点
平成 22 年度調査	2.67	4.03	
平成 25 年度調査	2.79	4.02	
平成 26 年度調査	2.77	3.92	
平成 27 年度調査	2.77	3.91	

(1) Aの項目（満足度が低く、重要度が高い）

平成 27 年度調査では、前年度に比べ、「水産業・関連産業の振興」が新たに A の領域に加わっています

		平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
A		<ul style="list-style-type: none"> ○海の資源の十分な活用 ○林業の活気 ○山の資源の十分な活用 ○商工業の活気 ○観光の場としての魅力・集客交流施設の充実 ○活発な企業活動 ○働く場の充実 ○全世代にわたる健康づくり事業の内容充実 ○医療機関の充実 ○公共の建物や交通におけるバリアフリーの充実 ○社会保障制度の適正な運用 ○高等教育機関や高等教育の学習機会の充実 ○将来を見通した都市計画の進展 ○公共交通の利便性 ○行財政改革の進展 ○行政の広域的連携による効率的な行政サービスの進展 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療 ○高齢福祉の充実 ○第 1 次産業の活性化 ○産業の活性化 ○雇用の安定確保 ○学校教育の充実 ○財政の健全化
		平成 25 年度調査	平成 26 年度調査
		<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加によるまちづくり ○防災と危機管理 ○地域医療体制の確保 ○高齢者保健福祉の推進 ○社会保障の確保 ○商工観光業の振興 ○学校教育の充実 ○災害に強い都市施設の推進 ○公共交通の確保 ○財政の健全化 ○広域・外部連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加によるまちづくり ○防災と危機管理 ○地域医療体制の確保 ○高齢者保健福祉の推進 ○社会保障の確保 ○商工観光業の振興 ○子育て支援の推進 ○学校教育の充実 ○災害に強い都市施設の推進 ○公共交通の確保 ○財政の健全化 ○広域・外部連携の推進
	平成 27 年度調査		
	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加によるまちづくり ○防災と危機管理 ○地域医療体制の確保 ○高齢者保健福祉の推進 ○水産業・関連産業の振興 ○商工観光業の振興 ○子育て支援の推進 ○災害に強い都市施設の推進 ○公共交通の確保 ○財政の健全化 ○広域・外部連携の推進 		

(2) Bの項目（満足度も重要度も高い）

平成 27 年度調査では、前年度に比べ、「社会保障の確保」「学校教育の充実」「未就学児への支援」が新たにBの領域に加わっています。今後も現状の 7 項目を継続して充実させるとともに、他の領域からBの領域へ移動を促すよう努める必要があります。

	平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
B	<ul style="list-style-type: none"> ○水産業の活気 ○高齢者への福祉サービスの充実 ○障がいのある人への福祉サービスの充実 ○子育ての相談・保育などの充実・利便性 ○公的援助を必要とする世帯への十分な支援 ○人権擁護や人権意識の啓発の進展 ○豊かな自然環境の保護 ○環境美化・環境保護の取り組みの充実 ○環境に負荷の少ないごみ処理の実施 ○適正な生活排水の処理の実施 ○適正な斎場・墓地の維持管理の実施 ○火災や災害時の対策の充実 ○交通安全への対策の充実 ○犯罪を防ぐ対策の充実 ○消費生活の安定・安全の確保 ○青少年の健全な育成のための対策の充実 ○幼児教育の環境の充実 ○教育の内容や取り組みの充実 ○学校教育施設の規模や内容の充実 ○美しいまちなみや景観づくりの進展 ○主要な道路や生活道路の充実 ○安全で安定した水道の提供 ○地域の情報化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども・子育て ○障害福祉 ○防災・危機管理 ○消防・救急体制 ○自然環境
	平成 25 年度調査	平成 26 年度調査
	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加による防災対策 ○消防・救急体制の充実 ○防犯対策の推進 ○交通安全対策の推進 ○障がい者福祉の推進 ○安心・安全な水の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加による防災対策 ○消防・救急体制の充実 ○防犯対策の推進 ○交通安全対策の推進 ○障がい者福祉の推進 ○安心・安全な水の確保
	平成 27 年度調査	
	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加による防災対策 ○消防・救急体制の充実 ○障がい者福祉の推進 ○社会保障の確保 ○未就学児への支援 ○学校教育の充実 ○安全・安心な水の確保 	

(3) Cの項目（満足度も重要度も低い）

平成 27 年度調査では、新たに C の領域に加わった項目はなく、「市民相談窓口の確保」と「都市づくりの推進」は D の領域へ、「水産業・関連産業の振興」は A の領域へ移動しています。

	平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
C	<ul style="list-style-type: none"> ○農業の活気 ○鉱業の活気 ○商業施設の充実 ○スポーツ施設やスポーツ活動の内容の充実 ○芸術や文化にかかわる機会の充実 ○多様な地域・人々との交流の進展 ○国際的な交流の進展 ○文化財や文化保護施設の充実 ○多様なニーズに対応した港湾環境の整備の進展 ○公園・広場・緑地の充実 ○適正な公営住宅の整備・管理の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加の充実 ○道路の整備 ○計画的な土地利用
	平成 25 年度調査	平成 26 年度調査
	<ul style="list-style-type: none"> ○市民相談窓口の確保 ○生活保障の確保 ○農業・関連産業の振興 ○林業・関連産業の振興 ○生涯スポーツの推進 ○国際交流の推進 ○鳥獣害対策の推進 ○都市づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民相談窓口の確保 ○生活保障の確保 ○農業・関連産業の振興 ○林業・関連産業の振興 ○水産業・関連産業の振興 ○生涯スポーツの推進 ○国際交流の推進 ○鳥獣害対策の推進 ○都市づくりの推進
	平成 27 年度調査	
	<ul style="list-style-type: none"> ○生活保障の確保 ○農業・関連産業の振興 ○林業・関連産業の振興 ○生涯スポーツの推進 ○国際交流の推進 ○鳥獣害対策の推進 	

(4) Dの項目（満足度が高く、重要度は低い）

平成 27 年度調査では、「未就学児への支援」がBの領域に移動し、「防犯対策の推進」「交通安全対策の推進」「市民相談窓口の確保」「都市づくりの推進」の4項目が新たにDの領域に加わっています。今後も引き続き、現状の項目の満足度を維持するとともに、Bの領域と同様に、他の領域の項目の満足度向上に努めることが求められています。

	平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
D	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館などの施設や社会教育の内容の充実 ○伝統芸能の保護 ○市政やまちづくりへの市民の参加 ○広報・広聴のきめ細やかな実施 ○活発な地域コミュニティ活動 ○男女が平等に社会参加できる環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康づくり ○交通安全の確保 ○安全な暮らしの実現 ○コミュニティの維持・再生 ○人権尊重社会の実現 ○地球環境の保全 ○廃棄物とリサイクル ○生涯学習の推進 ○情報の活用
	平成 25 年度調査	平成 26 年度調査
	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有化の推進 ○人権尊重社会の実現 ○男女共同参画の推進 ○健康づくりの推進 ○水産業・関連産業の振興 ○未就学児への支援 ○生涯教育の推進 ○森林の公益的機能の保全 ○自然環境の保全 ○資源循環型社会の推進 ○良好な生活環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有化の推進 ○人権尊重社会の実現 ○男女共同参画の推進 ○健康づくりの推進 ○未就学児への支援 ○生涯教育の推進 ○森林の公益的機能の保全 ○自然環境の保全 ○資源循環型社会の推進 ○良好な生活環境の保全
	平成 27 年度調査	
	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有化の推進 ○防犯対策の推進 ○交通安全対策の推進 ○人権尊重社会の実現 ○男女共同参画の推進 ○健康づくりの推進 ○市民相談窓口の確保 ○生涯教育の推進 ○森林の公益的機能の保全 ○自然環境の保全 ○資源循環型社会の推進 ○良好な生活環境の保全 ○都市づくりの推進 	